

ビライニ仕ヘムコトヲ勸メシモ頑トシテ聽カス、遂ニ殺サレタリ。
 浙江ニ往キタル「アルガン」ト董文炳ハ處州ニ於テ宋軍ヲ破リ、福建ニ於テ「シヤウ」
 (Shao Wu?) 城ヲ取ル。諸城之ヲ見テ或ハ降り或ハ叛クモノ多ク、宋ノ朝廷殆ント危
 シ。安全ノ途ヲ講セサルヲ得ス。乃チ陳宜中ト張世傑大軍ヲ集メ、舟ヲ備ヘテ帝ヲ載
 セ、航シテ南方泉州「マルコボロ」ノ所「ザイツン」(Zaitun)ニ泊ス。泉州ハ商業繁盛ノ海港
 ニシテ常ニ船舶輻湊ス。諸將、必要アリシ爲メ、船若干隻ヲ奪ヒシカ、其多クハ同地ノ
 總督(富メル商人ナリキ)ノ所有ナリシ(カ如シ)ヲ以テ、彼レ大ニ怒リ、上陸シタル凡テ
 ノ者ヲ撃チ、其艦隊ヲ港外ニ驅逐シ、其後、城ヲ蒙軍ニ引渡シヌ。

「アリハイヤ」ハ廣西ノ首都「コイリン」(Kuling)鬱林? 府ヲ圍ミ猛撃三箇月ニ及フト
 雖城將「マキ」(Ma)馬堅? 奮闘死守ス。アリハイヤ、乃チ「マキ」ヲ廣西ノ總督ニ任スル旨
 ノ辭令ヲ「クビライ」ニ請ヒ受ケ、之ヲ送ル。「マキ」之ヲ燒キ且ツ使ヲ殺ス。城ハ二河ノ會
 スル所ニアリテ、之ヲ攻ムルニハ只一方面ヨリスルノ外ナク、從ツテ城兵只之ヲ守レ
 ハ足ル、拔ケ難キ所以ナリ。アリハイヤ、乃チ土ヲ掘リテ新ニ河床ヲ造リ、流ヲ導キ、以
 テ、何ツレノ方面ヨリモ城ヲ攻ムヘカラシメ、ヤカテ急雨ノ如ク、城壁ヲ超ヘテ討チ
 入リヌ。「マキ」撓ムコトナク各所ニ奮闘シ、創、全身ニ遍ク出血夥シキニ至リ、遂ニ生擒

ラレシカ間モナク死シ、城民亦盡ク屠ラル。

尋テ「アリハイヤ」兵ヲ數隊ニ分チ省内ノ各大城ヲ取ルヘク遣ハシヌ。
 サテ、幼帝益王ハ、今ノ香港ヨリ程遠カラサル惠州ニ往キ、「クビライ」ニ宛テタル降
 ヲ請フノ書ヲ蒙將「スツ」(Su)索多ニ送ル。「スツ」其使者ヲ己レノ子ト共ニ上都ニ遣ハ
 セシカ、此間戰爭繼續セラレ廣東全省平定ス。

恰モ此時「クビライ」南支ノ「バヤン」ニ其既ニ取レル地ヲ守備スルニ必要ナルタケ
 ノ兵ヲ殘シ、歸リ來ルヘク命ス。「バヤン」乃チ李恒ヲシテ留マリテ守備ニ當ラシメ、自
 ラ、他ノ兵ヲ率キテ北方ニ進ム。蓋シ「カイヅ」ヲ征セムトスルナリ。「バヤン」ノ去リタル
 後、宋兵、南方ノ諸省ニ於テ多クノ城ヲ奪回スルヲ得、張世傑大船隊ヲ以テ潮州ヲ攻
 メシモ「スツ」ノ爲メニ撃退セラル。「スツ」支那人ハ信用スルコト能ハスト言ヒ、例ノ蒙
 古式ノ屠殺ヲ復興シ、其取リタル城民ヲ些ノ容赦ナク斬リ盡シヌ。サテ、「クビライ」南
 方諸城、宋兵ノ爲メニ奪回セラレタルヲ聞キ、一二七八年、新ニ兵ヲ送リテ、「タチウ」(Ta
 chu)塔出? ト李恒ト「リウセク」(Liu se kwe)漢字不明ヲシテ「タインリン」(Tayn ling)漢
 字不明(山ヲ越ヘシメ、同時ニ「スツ」等ヲシテ宋ノ舟師ヲ撃タシム。
 「スツ」向フ所敵ナク、遂ニ潮州ニ到リシカ、同地ニ於テ強烈ナル抵抗ニ會フ。彼レ直

チニ廣東附近ニ航シ、宋ノ陸兵ノ降リタルヲ取リテ我兵ニ併セ、潮州ニ歸リテ之ヲ圍ム。同城ハ建築極メテ堅固、守將馬發決死奮闘シ、二十日ヲ經テ未タ陷ラス。却ツテ、馬發出テテ蒙軍ノ攻城機ヲ燒キシカ、衆寡敵セス、彼レ遂ニ圍マレ討死シ、從ヒタル兵城中ニ逃ケシモ、蒙兵續イテ馳セ到リテ門ニ入りテ城ヲ占有シ、城民ヲ一人モ殘サス斬リ殺シス。

宋ノ新帝、今ヤ船ヲ安全ニ泊スルノ港ナク、海上ヲ彷徨セシカ、一二七八年五月、碭州ト稱スル小ナル無人島ニ於テ病死ス。齡十一。隨ヒ居リタル高官及名士「クビライ」ニ降ラムト欲ス。陸秀夫、猛烈ニ之ニ反對シテ曰ク「度宗帝ノ一子尙在リ、立テテ皇帝トナスヘシ。將士來リ附クモノ、豈少カラサラムヤ。天若シ未タ宋ヲ滅ボスノ意ナクムハ、其偉業ヲ恢復セムコト不可能ナラス」ト。

衆、是言ヲ是トシ、乃チ土ヲ以テ作レル臺ノ上ニ廣王ヲ置キ、其前ニ拜跪シテ即位ノ式ヲ舉ク。稱シテ弟炳トイフ。陸秀夫ト張世傑相タリ。本營海上ニアリ、船竝ニ兵ノ數少カラス。廣東灣内甲子門ト厓山トノ間ニ次ス。地ノ利ヲ占メタルモノノ如シ。兎モ角モ是レ宋ノ最後ノ據所ナルナリ。世傑、厓山ノ頂キニ皇居ト兵舎ヲ建テ、又盛ニ船ヲ作り資糧ヲ貯フ。資糧ハ廣東及其他蒙古ニモ宋ニモ屬シタル諸地ヨリ仰キタ

リ。文天祥、數回失敗ノ後、廣東ヲ取り、暫ラク之ヲ保持ス。

此時張弘範「クビライ」ニ上書シテ、廣東ヲ取ルノ必要ヲ告ク「クビライ」之レニ寶石ヲ鑲メタル劔ヲ授ケ、征宋軍ノ總指揮ニ任ス。弘範先ツ宋ノ陸兵ヲ討ツ。彼等多ク新兵ナリ、蒙兵ノ老練ニ敵スヘクモアラス。忽チニシテ潰エ、敵ノ大將、文天祥ヲ始メ、劉子俊、鄒淵等擒ニセラレ、淵ハ自殺シ、子俊ハ火ヲ以テ徐々ニ燒キ殺サル。天祥、切ニ死ヲ請ヘトモ弘範許サス。北面シテ拜跪セヨト命スルモ、應セサリシカハ、彼レヲ「クビライ」ニ送り、擒トナレル彼レノ親族及知己ヲ解放シタリ。

カクテ、宋ノ陸軍ハ敗レタリ、今ハソノ海軍ヲ破ラサルヘカラス。弘範、兵ヲ船ニ載セ、厓山ニ進ム。然ルニ同島ニハ堡塞アリテ宋兵固ク之ヲ守ルアリ、又北面ハ水淺クシテ大船入ル能ハス、爲メニ宋ノ艦隊安全ナル如ク見エタリ。

弘範、敵狀ヲ偵察シ、我船ノ大ニシテ用ユヘカラサルヲ見、若干ノ小船ニ藁ヲ積ミ、之レニ油ヲ濺キ、火ヲ附ケ、強キ南風ニ乘シテ、敵ニ向ツテ之ヲ放ツ。然ルニ世傑前列ノ船ト網具ニ泥ヲ塗リテ拒キ、戦ヒシカハ燒クコト能ハス。

此頃廣東ハ既ニ再ヒ蒙古ノ手ニ歸シタルヲ以テ、弘範ハ同地ヨリ人及船ノ供給ヲ得、之ヲシテ厓山ノ北ニ往カシメ、同島ノ西、同島ト甲子門トノ間ニ在ル宋ノ艦隊

ヲ南北ヨリ一齊ニ攻撃ス。宋軍善ク戦ヒシカ、夜ニ入リテ船中恐慌起ラムトシテ諸將之ヲ制スル能ハス。世傑乃チ諸將ト議シ、霧ニ乘シテ灣外ニ出ツヘク決シ、大船十六隻先驅ヲナス。陸秀夫帝ヲ護ルヘク帝ノ船ニアリシカ、其船ハ他ヨリモ大ニシテ操縦困難ナリ。彼等灣口ニ來レハ、蒙船連鎖ヲナシテ之ヲ封セルヲ見、進退谷マリヌ。陸秀夫之ヲ見、先ツ己レノ妻子ヲ海ニ投シ、尋テ弟炳ニ、苟モ宋帝タル者ハ死ストモ擒トナルヘカラスト告ケ、帝ヲ肩ニシテ、共ニ海ニ投ス。大官ノ多ク亦之レニ倣ヒテ溺死ス。

蒙軍、宋ノ船ヲ獲ルコト八百餘隻、敵ノ死屍水ヲ蔽フ。弟炳ノ死體モンノ中ニアリ、ソノ國璽ヲ帶ヘルカ發見セラレタリ。世傑、帝ノ死ヲ聞キ、太后ノ船ニ到リ、同族ノ一人ヲ選ムテ立テムコトヲ請ヒシカ、太后、己レノ子ノ死シタルヲ知り、一言ノ答ヲナスコトナク己レ亦海ニ投ス。從ヘル女官之ニ倣フ。世傑、太后ノ屍ヲ取りテ、陸地ニ葬リタル後、東京ニ航シ、同地ニ於テ同志ヲ糾合シ、歸リテ宋室ヲ恢復セムト謀リシカ、東京灣ヲ過クル時、不幸暴風ニ遭ヒテ死シタリ。

又此間ニ、彼レノ同僚蘇劉義モ部下ノ爲メニ殺サレ、カクテ、全支那盡ク鎮定シ、クビライハ今ヤ、蒙古人カ五十餘年間戦ヒタル帝國ヲ占領スルヲ得、宋朝ハ治世三百

二十年ニシテ滅ビヌ。

第十八章 「クビライ」ノ支那ニ於ケル活動及

「カイヅ」トノ戦

「クビライ」カ兄弟アリク。ブガト確執シ、ブガ敗レテ遂ニ死シタル事ハ上既ニ詳述シタリシカ、尋テ現ハレタル「カイヅ」ハ「クビライ」ニ取りテ更ニ危険ナル敵ナリトス。彼レハ「オゴタイ」ノ孫ナリ。始メ「ジンギス」、「オゴタイ」ヲ以テ己レノ後繼者ニ指名シ、「クルルタイ」之ヲ確認シテ、爾來「オゴタイ」ノ子孫ヲ以テ蒙古大汗トナスヘク盟約シタルニ、「ツルイ」ノ子「マング」大汗ニ選ハレタル爲メ、此盟約破レ、其結果、蒙古バ久シク紛争ニ惱ミタリ。

「カイヅ」ト「クビライ」トノ戦争ハ、アリク。ブガノ死ヨリ「クビライ」ノ、死後マテ續キタリ。但シ此戦争ヲ語ルニ先チ、支那征服一二七九年一月三十一日、後支那ニ於テ「クビライ」ノ爲シタル事績ヲ述フルヲ可トセム。

「クビライ」宋ヲ滅ボスヤ間モナク日本ヲ征セムトス。日本ハ從來支那ニ入貢シタル國ナリ。一二七〇年「クビライ」、日本ノ皇帝ニ、己レハ天ノ子ニシテ又地ノ主タルヲ

承認セシムヘク一使ヲ遣ハシシカ、皇帝ハ謁見ヲ許サス。後、マタ數名ノ使ヲ送リシニ皆日本人ニ殺サレタリ。「クビライ」是ニ於テ日本征服ノ意ヲ決ス。諸賢臣之ヲ諫メテ曰ク、此遠征ニハ多クノ危険アリ。勝敗知ルヘカラス。タトヒ、克ツコトアリトスルモ得ル所、失フ所ヲ償フ能ハサルヘシト。サレト、「クビライ」聽カス。精兵十萬ヲ派スヘク命ス。乃チ一二八〇年ノ末、艦隊ハ臨安及泉州ヲ發シ、朝鮮ニ到リ、同地ニ於テ更ニ九百ノ船ト一萬ノ兵ヲ併セ、日本ニ向ヒシカ、日本ノ海岸ヲ距ル遠カラサル所ニ於テ暴風ニ遭ヒ、船ノ大部分沈没シ、虜トナレル者モアリ、支那兵六萬、蒙兵三萬死ス。カクテ、一二八一年ノ秋、僅カハカリノ殘船殘兵支那ニ歸リス。

宋朝倒レタル時、交趾ノ王、「クビライ」ニ服從シ、貢ヲ納メシカ、「クビライ」此貢ヲ不足ナリトシ、己レノ臣數名ヲ其國ニ派シ、政務ヲ司ラシム。交趾ノ太子、外國人カ自國ノ政ヲ擅ニスルヲ憤リ、父ニ勸メテ之ヲ捉フ。「クビライ」此不逞ヲ罰スヘク、將軍「スツ」ヲシテ一艦隊ヲ率キテ到リテ之ヲ討タシム。「スツ」一二八一年同國ノ首都ニ上陸シ、直ニ之ヲ取ル。太子山地ニ退キ、媾和ヲ申込ムト同時ニ陰ニ兵備ヲ治ム。ヤカラ「スツ」敵兵、我レト船トノ連絡ヲ絶ツヘク諸方ヨリ進ミツツアリト聞キ、廣東ニ歸リス。

西雲南ニ當時「ライリウ」[Lai liu 漢字不明]「エンチャン」[Yung chang 漢字不明]ノ二王

國アリ。「クビライ」之ヲ征伐セシム。二國カ貢ヲ納メ居リタル(如ク思ハル)緬甸ノ王、蒙兵ヲ逐出スヘク歩騎併セテ六萬ノ兵ヲ率キテ到ル(一二七七年)前列ハ櫓ヲ載セタル象ヨリ成リ、櫓ニハ射手乗レリ。

蒙兵、堡壘ノ後ヨリ出テ森ニ沿ヒテ敵ヲ撃タムトセシカ、馬象ヲ見テ恐慌シ、暫時之ヲ制スル能ハス。既ニシテ馬、鎮マルヤ「ナシル」ウド「ヂン」兵ニ命シテ馬ヲ降り、之ヲ森ニ置キ、徒歩シテ進ミ象ヲ射ラシム。象ニハ何等ノ武裝ナカリシカハ忽チニシテ全身創ニ被ハレ、痛ミニ耐エス、或ハ後方ニ向ヒ後列ノ中ヲ通シテ逃ケ、或ハ森ニ走リテ背上ノ櫓ヲ破壊シ、射手ヲ振り落シヌ。

カクテ象見エスナリテ、蒙兵再ヒ馬ニ乘リ、先ツ矢ヲ放チ次テ劔ヲ抜イテ薄ル。緬甸兵ハ甲冑ヲ帶ヒサリシカハ直チニ潰走ス。蒙兵、象二百頭ヲ捕獲スルヲ得、更ニ追撃セシモ炎暑甚シクシテ退却ス。此戰ノ後、「クビライ」常ニ象ヲ軍中ニ置ク。一二八三年、「クビライ」緬甸王ヲ諭シテ貢ヲ納メシメ、蒙古ノ官吏ヲ其地ニ駐在セシム。ムトセシモ王許ササリシカハ、「シアンタル」[Shan Kiu]ヲ將トシ大軍ヲ率キテ之ヲ討タシム。蒙軍太公城ヲ圍ミ、暫ラクニシテ之ヲ陥ル。王入貢ヲ諾ス。雲南ノ民金幽等、從來蒙古ニ降ラムト欲セシモ、王ノ爲メニ制セラレテ能ハサリシカ、是ニ於テ遂ニ公然降服シタ

「クビライ」再ヒ日本ヲ征シテ先キノ敗ニ報キムト謀リ、「アガタイ」(Agai)ヲ總將トシ、朝鮮ノ王ニ船五百隻ヲ供給スヘク命ジ、又江南、浙江、福建諸省ニ於テ船ヲ造ラシメ、大ニ人ヲ徵發ス。ソノ爲メ、是等ノ地ハ商工業ノ上ニ大害ヲ受ケタリ。強制的ニ徵發セラレタル船工及水夫等群ヲナシテ彷徨シ、或ハ強盜シ、或ハ沿海ニ於テ海賊トナレリ。兵士不平多ク、諸臣マタ戰ヲ非トス。然ルニ會々事アリ、「クビライ」ノ注意他ニ向ヒヌ。交趾支那ノ王、一二八一年「スツ」カ去リタル後、使ヲ「クビライ」ニ遣ハシテ和ヲ求メムトセシカ、「クビライ」之レニ謁見ヲ許サス、己レノ子ニシテ當時東雲南ノ總督タリシ「トガン」(Togan) 托歎ヲ將トシ、東京ヲ經テ交趾支那ヲ討ツヘク命ジ、且ツ「スツ」ニ之ヲ應援スヘク命シタリ。「トガン」東京ニ到ルヤ、其主「チン・コアン・ピン」(Ching koan pin) 漢字不明出テテ降り、三年毎ニ一定ノ金銀寶石、藥草、犀角及象牙ヲ獻スヘキヲ約ス。同時ニ「クビライ」一吏ヲ派シテ同都ニ駐在セシム、是ヨリ先、一二七七年「チン・コアン・ピン」ノ子「チン・ゲスアン」(Chin ge suan) 陳日烜?位ヲ繼ク、彼レ蒙人ヲ憎ミ之ヲ撃タムト謀リ居リシカ、「トガン」ソノ來ラントスル途中、糧食ノ供給ヲ求ムルヤ、「チン・ゲスアン」言ヲ左右ニ託シテ應セス。「トガン」依ツテ明ニ其敵意ヲ認メ、最初ニ東京ヲ征服ス

ルノ必要ヲ感シタリ。一二八五年一月「トガン」其國ニ入ルヤ、筏ニヨリテ富良江ヲ渡ル。岸ニ在リタル敵兵忽チ散シ、王亦遁レテ往ク所ヲ知ラス。「トガン」戰終レリト考ヘシニ、ヤカテ敵兵突進シ來リテ撃ツ。「トガン」進ム能ハス、且炎暑烈シク雨降リテ病ム者多シ。己ムヲ得ス、雲南ニ退却ス。退却中モ絶エヌ敵兵ノ惱マス所トナリ、副將李恒毒矢ニ中リ間モナク死ス。

此時「スツ」ハ「トガン」ノ軍ヲ距ルコト二十里、其苦戰ヲ知ラサリシカ、彼レモ乾滿江ニ於テ戰死シタリ。「クビライ」切ニ此名將ノ死ヲ痛ム。加フルニ、此頃己レノ後繼者ト定メタル「チン・キン」(Ching kin) 眞金又ハ精吉木亦四十三歳ニシテ死シタリ。彼レ、賢明ニシテ漢學ニ通シ、性廉直、正義ヲ愛シ、衆ノ尊ヲ所ナリキ。三子アリ「カマラ」(Kamala) 瑪拉又ハ甘麻刺「タルマ・バラ」(Dharma Bala) 「チムル」(Tium) トイフ。此三人ニ付テハ尙後文ニ於テ多ク述フル所アルヘシ。

一二八六年ノ間、日本征伐ハ尙懸案ナリキ。兵備既ニ整ヒ、同年九月ヲ期シテ全艦隊ヲ合浦ニ集合スヘク豫定セシカ、行政裁判ノ判事長、大ニ諫メテ之ヲ思ヒ止ラシム。カクテ日本ニ意ヲ絶テタル「クビライ」更ニ交趾支那ヲ征セムト欲シ、「アリハイヤ」ニ命シテ南支那ニ兵ヲ徵セシメ、「トガン」ヲ之レニ將トシ、程鵬飛及樊揖ヲ副トシ往

キテ東京ヲ襲ハシム。彼等一二八七年二月東京ニ入ル。同時ニ「キブチャク」ノ大將シツル「Siur 蘇都爾」部下ノ將士ヲ載セタル艦隊ヲ率キテ廣東ヨリ來レリ。カクテ「クビライ」側ノ軍、海陸並進ムテ東京人ト戦フコト十七回、其國ノ一部ヲ取り、且首都ヲ蹂躪シ莫大ノ富ヲ奪ヒタル後、歡聲ヲ揚ケテ雲南ニ引キ上ク。東京王「チングスアン」海ニ逃レテ其往ク所ヲ知ラサリシカ、蒙兵去ルヤ再ヒ大軍ヲ率キテ現ハレタリ。

一二八八年「トガン」再ヒ東京ニ入ル。住民既ニ武装シテ戰備ヲナセルヲ見タリ。戰爭夏ニ及ヒ、疫病ノ爲メニ士卒死スル者多ク、己ムヲ得スシテ一時、廣西ニ退却ス。チングスアン「乘シテ以テ其歸路ヲ絶ツ。數回ノ戰爭ニ「トガン」ノ將士死スル者多ク、撻揖「アバッチ」(Apatchi 阿巴齊)モ亦命ヲ失ヒシカ、「シツル」勇戰シ、前頭ニ立テテ血路ヲ開キシニヨリ「トガン」逃ルルヲ得タリ。

東京王ハカク勝利ヲ得タルモ、降服スルヲ賢ナリト考ヘ、「クビライ」ニ己レノ罪ヲ償フ爲メニ金像ヲ獻シ、一切過去ノ事ヲ忘レムコトヲ請フ。「クビライ」「トガン」ノ敗ヲ罰スル爲メ、雲南總督ノ任ヲ解キ、入覲ヲ禁シ、揚州ニ居ラシム。

是ヨリ先キ一二八五年「クビライ」楊庭堅ヲ南方諸島ニ遣ハシ其地ノ兵備及富ヲ視察セシム。此事、效ヲ奏シ、一二八六年ニハ海南十國ノ船舶貢ヲ載セテ福建省泉州

港ニ來レリ。但シ、コハ貢ニアラスシテ單ナル禮物ニ過キサリシモノノ如シ。

「クビライ」カ日本征伐ヲ中止シタル主ナル理由ノ恐ラクハ「ハ、カノ蒙古ノ主タラムトシテ二十年間活動セル「カイヅ」ヲ恐レタルニアリ。「カイヅ」ハ「オゴタイ」ノ孫ナレハ、之ヲ「ジンギス」ノ遺言ニ見ルモ、ハタ「クルルタイ」第一會ノ決議ニ徵スルモ、ソカ蒙古ノ皇位ニ對スル權利ハ爭フヘカラス。彼レ多年ノ間、種々ノ口實ノ下ニ「クビライ」ノ朝廷ニ來ラサリシカ、今ヤ公然、離叛スルニ至レリ。「クビライ」乃チ「ボラク」(Borak)「巴拉」又ハ八剌ヲシテ「カイヅ」ヲ控制セシメムトス。蓋シ「ボラク」ハ先キニ「クビライ」カ立テテ以テ「ジャガタイ」ノ汗トナシタル所ニシテ、其領、西部ニ於テ「カイヅ」ノ領ト境ヲ接セシニヨル。

「カイヅ」ト「ボラク」先ツ「シルダリヤ」即チ「ヤクサルテス」河畔ニ戰フ。「ボラク」伏ヲ設ケテ巧ニ敵ヲ破リ、多クノ俘虜ト戰利品ヲ獲タリ。後「カイヅ」ノ子孫ナル金族ノ「マング・テムル」ニ援ヲ乞フ。「テムル」叔父「ベルガツチャル」(Bergatchar)ニ兵ヲ率キテ往カシム。「カイヅ」是等ノ兵ヲ己レノ兵ト併セ、「ボラク」ト激戰シテ之ヲ破ル。「ボラク」ト「ランソキノニヤ」ニ退キ、「ボカラ」及「サマルカンド」ヲ脅カシテ財物ヲ取り、之レニヨリテ新ニ兵ヲ募リ、大ニ再戰ノ準備ヲナシツツアリシニ、「カイヅ」「キブチャク」ノ「オグル」

(Oghis)ヲ遣ハシテ和ヲ請フ。オグルハ「ボラク」ニモ「カイヅ」ニモ親睦シカリシニヨル「カイヅ」ノ申出テタル條件「ボラク」ニ有利ナル。モノナリシカハ「ボラク」直チニ之ヲ諾シ、新ニ「カイヅ」ト同盟ヲ結ビ互ニ盟友即チ「アング」トナリヌ。

此同盟ニヨリ「カイヅ」ハ「ジャガタイ」ノ國、即チ「トルコスタン」ト「トランソキソニヤ」ヲ支配スルヲ得タリ。「ボラク」一二七〇年死シ「サルバン」(Sarban)ノ子ニシテ「ジャガタイ」ノ孫ナル「ニクベイ」(Nikobey)尼克伯繼キシカ、彼レ「カイヅ」ニ叛キ、一二七二年戦ヒ敗レテ死ス。トガチムル「Toga Timur」托喀帖木兒繼ク「チムル」死スルヤ「カイヅ」己レノ盟友「ボラク」ノ子「ヅア」(Dua)都斡ヲ推シテ後ヲ襲カシム。一二七五年「カイヅ」ト「ヅア」十萬ノ兵ヲ率キテ「ウイグル」國ヲ攻メ其首都ヲ圍ミ、イデクトニ迫リテ「クビライ」征討ニ参加セムコトヲ要求セシニ、會々「クビライ」ノ軍、同地方ニ現ハレ、イデクトハ是ヨリ援助ヲ受クルヲ得タリ。同年「クビライ」己レノ子「ヌムガン」(Nunugan)那木罕ヲ將トシ、西方ニ大軍ヲ送ル。ジンギスノ最モ寵シタル又恐ラクハ最良ノ將「ムクリ」ノ裔ニシテ當時大臣タリシ「ハンツム」(Hantun)安圖將軍「ヌムガン」ノ兄弟「グエクシ」(Gueki)「ハン」グノ子「シレキ」(Shireki)錫喇勤濟「トクチムル」(Tokimur)及其他ノ諸王子各己レノ兵ヲ以テ隨フ。「ヌムガン」發スルニ臨ミ「アルマリク」ノ總督ニ任セラル。

一二七七年「トクチムル」「クビライ」ト快カラス。「マング」ノ子「シレキ」ヲ立テテ蒙古ノ皇帝トナサムト欲シ、ソノ旨ヲ告ケシニ「シレキ」之ヲ諾ス。ヨツテ、其夜「クビライ」ノ二子ト「ハンツム」トヲ捕ヘ、二子ヲ「キブチャク」ノ王「マングチムル」ニ、「ハンツム」ヲ「カイヅ」ニ送ル。稍後「ジャガタイ」ノ子「サルバン」(Sarban)及其同族並ニ「オゴタイ」ノ子孫等亦「シレキ」ニ附ク。是ニ於テ「クビライ」、「バヤン」ヲ南支那ヨリ召シ、兵ヲ率キテ「シレキ」ノ黨ヲ討タシム。「バヤン」敵ノ「オルグン」河畔ニ固ク陣スルヲ見、糧食ヲ絶ツ。ヤカテ、激戦アリ。數時ノ間、勝敗決セサリシカ、遂ニ「バヤン」ノ勝トナリ。「シレキ」、「イルチシ」河ノ方ニ走リ、「トクチムル」、「キルギス」國ニ逃レシニ、「クビライ」ノ兵、急ニ「キルギス」ニ現ハレ、其陣ヲ襲ヒテ財物ヲ奪フ。「トクチムル」救ヲ「シレキ」ニ乞フモ「シレキ」之レニ應セサリシカハ、怒リテ「シレキ」ヲ廢シ「サルバン」ヲ立テムトス。「シレキ」乃チ彼レノ怒ヲ解カムト試ミタルニ彼レ曰ク「汝ハ怯ニシテ蒙古ノ皇帝タルニ、適セス。サルバンハ汝ニ優ルト。カクテ「シレキ」ハ屈セシメラレタルノミナラス、「マングチムル」ト「カイヅ」トニ他ノ王子等ノ使ト共ニ己レノ使ヲ送リテ「サルバン」ヲ選ハレタル由告ケシメラレタリ。

「トクチムル」更ニ「ユブクル」(Yubukur)ニ迫リテ「サルバン」ノ即位ヲ承認セシメムト欲

セシガ「ユブクル」ハ却ツテ兵ヲ集メテ「トクチムル」ヲ討タムトス。未タ戦ハスシテ「トクチムル」ノ兵皆來リテ「ユブクル」ニ附キシカハ「トクチムル」逃ケタリシモ、ヤカテ捕ヘラレ「シレキ」ニ送ラル。「シレキ」ヤガテ「ユブクル」ノ命ニヨリ之ヲ殺シヌ。「トクチムル」勇剛ニシテ射ヲ善クス。彼レ、戦中常ニ白馬ニ跨ル。曰ク人ハ黒馬ヲ取ル。是レ、血ニ汚カレタル時目立サラシメムカ爲メナルヘキモ、馬ト騎者ノ血カ寧ロ騎者ヲ美ナラシムルコト猶ホ臙脂ノ女ニ於ケルカ如キヲ覺ユト。

サテ援助者ヲ失ヒタル「サルバン」。「シレキ」ノ許ニ來リ、「トクチムル」ノ傀儡トナリタル罪ヲ宥サレムコトヲ請フ。「シレキ」。「サルバン」ノ兵ヲ取リタル後「サルバン」ニ五十名ノ警護ヲ附シテ「ジユチ」ノ孫「コツチ・オグル」(Kochi Ogu)ニ送リシカ「ジエンド」(Jendo)及「オズケンド」(Ozkend)地方ヲ過クル時、會々其地方ニ屯シタル己レノ兵ニ救ハレシカハ、彼レ是等ヲ率キテ「シレキ」ヲ討ツヘク進ミシニ「シレキ」ノ兵來リテ「サルバン」ニ歸スル者多ク「サルバン」遂ニ「シレキ」ヲ捕フルヲ得タリ。「ヤクブル」ヨツテ「シレキ」ヲ援クヘク來リシニ、マタ部下ノ兵去リテ「サルバン」ニ往ク者多ク、己レモ「サルバン」ノ捕フル所トナリヌ。「サルバン」此二人ニ五百ノ警護兵ヲ附シ、共ニ「クビライ」ヲ訪フヘク出發セシカ「ウツチユゲン」(Utchugen)ノ國ノ附近ニ來リシ時「ユブクル」王「ウツチユゲン」ニ

銀及寶玉ヲ献シ、己レヲ救ハムコトヲ請フ。「ウツチユゲン」ノ子孫、急ニ「サルバン」ヲ襲ヒ其兵ヲ擒ニス。「サルバン」陰ニ逃レテ往キテ「クビライ」ニ謁ス。「クビライ」之レニ地ト兵トヲ豊カニ授ケタリ。然ルニ「シレキ」ハ「クビライ」ニ送ラレ、クビライ「之ヲ風土惡シキ島ニ流シシカ、ヤカテ、同所ニ於テ死ス」ユクブル「ハ暫ラク「カイヅ」ニ仕ヘタル後「クビライ」ト和シ、先キニ「シレキ」ニ捕ヘラレタル「クビライ」ノ子「ヌムガン」亦其後、解放サレヌ。

是等ノ葛藤ヨリ十年ノ後「カイヅ」。「ジンギス」ノ諸兄弟ノ子孫ヲ集メテ新ニ「クビライ」ニ對スル同盟ヲ作ル。「ジンギス」ノ末弟「ウツチユゲン」ヨリ五代目ノ「ナヤン」(Nayan)。「ジユチカツサル」ノ裔「シンツル」(Singtur)。「カヂウン」(Kadjun)ノ裔「カダン」(Kadan)是ナリ。是等ハ何ツレモ今日ノ滿洲ニアリタル者ナリ。「ナヤン」兵四萬ヲ有ス。「カイヅ」精兵十萬ヲ率キテ「ナヤン」ニ合セムトス。「クビライ」之ヲ妨ケムト欲シ「バヤン」ヲ西方ニ送リテ「カイヅ」ヲ制シメ、自ラ「ナヤン」等ヲ討タムトス。

「クビライ」先ツ海ニヨツテ糧食ヲ遼河ノ口ニ送り、急ニ軍ヲ進メシニ、該河ノ附近奉天ヨリ南方稍距リタル地ニ「ナヤン」ヲ見タリ。乃チ敵ニ我動靜ヲ知ラササシメムカ爲メニ、遙カニ先キニ偵察ヲ遣ハシ、我軍ノ支那兵ト蒙古兵トヲ分チテ二部隊ト

シ、一ツハ滿洲人李庭ヲシテ、一ツハ「ジンギス」幕下ノ四名將ノ一「ボエルチユ」ノ孫「イツスチムル」(Issu timur)ヲシテ之ヲ率キシム。

「クビライ」先ツ星占者ニ問ヒ、吉ヲ得テ後、戰鬪著手ノ信號ヲ發ス。騎兵三師團三十聯隊アリ。各聯隊ノ前ニ、槍ト劔ヲ持テル歩兵五百ヲ置ク。是等ノ歩兵ハ騎兵ノ後ニ跨リテ進ミ、敵ニ近キタル時降り、先ツ槍ヲ、次テ劔ヲ用ユ。騎兵退却スル時又ハ他ノ方向ニ往ク時モ、歩兵其後ニ飛ヒ乗ルナリ。「クビライ」ハ木製ノ櫓ノ中ニ座シ四頭ノ象之ヲ運フ。象ニハ革製ノ鎧ヲ被セ其上ヲ金色ノ布ヲ以テ蔽フ。櫓ニハ日月ヲ表ハシタル國旗ヲ立テ、其周圍ニ大弓小弓ノ射手アリテ之ヲ守レリ。

支那隊ト蒙古隊ト相並ヘル其間隙及周圍ハ多クノ喇叭ト管樂ノ音ヲ以テ充サレ、兵士ノ歌唱之レニ續キ、更ニ其後大ナル太鼓ヲ鳴ラシテ進撃ヲ始ム。ヤカテ矢ノ雲、空ニ漲ル。敵、近ツキ來ル時ハ槍ヲ振ヒ、次テ劔ヲ執リ、最後ニ格鬪ヲナス。サテ「ナヤン」奮戰、曉ヨリ午ニ及ヒシカ衆寡敵セス、遂ニ圍マレ、逃出サント努メシモ、遂ニ擒ニセラル。「クビライ」直ニ彼レヲ一對ノ毛皮ニ包ミ、外ヨリ毆打シ、血ヲ流スコトナク殺サシメタリ。傳フル所ニヨレハ、彼レハ基督教徒ニシテ「クビライ」ノ日月旗ニ對シ十字旗ヲ用キタリト。

此大戰ノ後、「クビライ」上都ニ歸リシカ、「シンツル」ト「カダン」未タ兵備ヲ解カス。ヨツテ、己レノ孫「チムル」(Timur)特穆爾ニ命ジ「ボロカン」(Polo khwan)「ツツカ」(Putukaj)「イツスチムル」(Yissu timur)及李庭芝等ノ諸將ト共ニ之ヲ討タシム。夏、激戰アリ「チムル」二人ヲ破リ、南滿洲降服シタリ。

主ナル敵、尙西方ニアリ「クビライ」乃チ「バヤン」ニ「カラクルム」ヲ與ヘテ西境ニ備ヘシメ、蒙古ニ於ケル凡テノ地ヲ警視セシム。「バヤン」未タ到ラサルニ、「チンキン」ノ子「クビライ」ノ愛孫「カマラ」一隊ノ兵ヲ率キテ「カイヅ」ガ「カンカイ」(Kangka)漢字不明、山ヲ踰ヘムトスルヲ遮ラムトシテ敗レ、「セリンカ」河ノ附近ニ圍マレシカ「ツツカ」及其「キブチャグ」兵急ニ敵ヲ突キテ僅カニ之ヲ救ヒ出スコトヲ得タリ。

「クビライ」事態ノ輕カラサルヲ見、老齡ナルニ拘ラス自ラ出征セムト欲シ、「ツツカ」ヲ召シテ之レト共ニ往カムトス。「ツツカ」召ニ應シテ到ル。「クビライ」其愛孫ヲ救ヒタルヲ賞ス。一二八九年七月、「クビライ」上都ヲ出發セシカ「カイヅ」ニ會ハス又近カスシテ引返ヘシヌ。

「バヤン」、「カラクルム」ニアリテ「カイヅ」ヲ喰止ムルコト四年間ニ及ヒシカ、其怠惰ヲ難シ且「カイヅ」ト默契アリト讒スル者アリシカハ「クビライ」彼レヲ退カシメ己レ

ノ孫チムルヲ以テ之ニ代ラシム。チムル未タ到ラサル間ニ「バヤン」進ムテ「カイヅ」ヲ討チ之ヲ破ル。歸リテ後、命ヲ拜シ宴ヲ設ケテ「チムル」ヲ招キ豊カナル贈物ヲ呈ス。彼レヤカテ既ニ指定セラレタル大同府ニ往キシカ、著スルヤ否ヤ「クビライ」ヨリノ召アリ、此間ニ疑既ニ晴レタル「クビライ」大ニ彼レノ功ヲ賞シ、ヤカテ宰相兼兩都(上都ト大都)總督ニ任シタリ。

「クビライ」好ムテ使ヲ南方ノ諸國ニ遣ハス。諸國ヨツテ、多クノ珍物ヲ船ニ積ミテ獻シタリ。彼レ嘗テ支那人ナル一大臣ヲシテ瓜哇ノ王ヲ訪ハシメタルニ、何ノ理由ニヨルカハ明ナラサレト、王、彼レノ面ニ焼印シテ之ヲ辱カシメテ歸ラシシカハ、「クビライ」天ニ怒リ、諸臣亦大ニ報ユヘシト主張ス。乃チ一二九五年、船千隻、兵三萬、一箇年分ノ糧食ト共ニ瓜哇ニ出發ス。瓜哇語ヲ解スル支那人史弼指揮タリ。瓜哇ノ王、伴リテ降服シ、弼ニ勸メテ、當時自國ト不和ナリシ隣國「コラン」(Kolang 葛郎)ヲ征伐セシム。弼大ニ「コラン」ノ王ヲ破リ捕ヘテ之ヲ殺ス。ヤカテ瓜哇ノ王叛キテ弼等ノ船ニ到ルノ道ヲ遮キリス。其距離三十里アリキ。弼、苦戰數回兵三千ヲ失ヒタル後漸ク船ニ達スルヲ得タリ。但シ、黄金寶石等多クヲ獲タリキ。歸朝スルヤ之ヲ「クビライ」ニ獻セシカト、「クビライ」ハ彼レカ瓜哇ヲ征服スル能ハサリシヲ怒リ、笞三十ニ處シ且家

産ノ三分一ヲ沒收シタリ。

始メ「クビライ」ノ即位スルヤ、財政ハ凡テ「セイド・エチエル」(Said Eijell)ニ委ヌ。彼レハ「ブカリオト」(Bukhariote)人ニシテ回教ヲ奉シ、正直ノ聲譽高カリシ者ナリ。彼レ一二七〇年死シ「アーメド」(Ahmed 阿合馬)其職ヲ襲ク。「アーメド」ハ「シルダリヤ」河畔ノ都「フェネケト」(Feneket)ノ人ナリ。蓋シ彼レ此地位ヲ得タルハ全ク彼レカ「クビライ」ノ愛セル第一ノ妻「ジヤムブイ・カツン」(Jambui Katun)ニ親近セシニヨル。彼レハ「ジヤムブイ」カ尙己レノ父「ノヨン」(Noyon)トイフ「クンクラト」(Kunkurat)族ノ酋長ノ家ニ在リシ頃ヨリ既ニ親シカリシカ、ソノ皇后トナルヤ、辯才ニ長シタル彼レハ、依ツテ以テ巧ニ「クビライ」ノ寵ヲ贏チ得、サテ「コソ」(セイド)ノ後ヲ襲カシメラルルニ至リタルナリ。

「クビライ」ハ常ニ財ヲ要シ、而カモ多クヲ要セシカ。「アーメド」ハ方法ヲ講シテヨク之レニ應スルヲ得タリ。彼レ皇后ノ寵ヲ恃ミテ權ヲ專ラニシ、高官ノ任免、其意ノママナルヲ得、己レノ憎ム者ハ之ヲ誅ス。而シテ、何人モ敢エテ彼レニ逆フ者、ナク、又何人モ厚ク彼レニ賄スルニアラサレハ官職ヲ得ル能ハサリキ。カクテ彼レ能フ限り己レノ地位ヲ濫用シテ巨萬ノ富ヲ積ミ、己レノ二十五人ノ子ヲ盡ク高職ニ就ケ、又美ナル女アルトキハ、アラユル手段ヲ用キテ己レノ情慾ヲ満足セシメタリ。

是ニ於テ、陰ニ彼レヲ排セムト謀ル者多ク、民亦彼レヲ憎ムコト甚シカリシモ、彼レハ十二年ノ間暴狀ヲ續ケタリ。帝ニ親近セル支那人ノ學者達、帝ニ彼レノ真相ヲ知ラシメムトスルモ能ハサリシカハ、遂ニ太子「チンキン」ニ之ヲ告ク「チン」天ニ怒リ意ヲ決シテ彼レヲ除カムトス。一日弓ヲ以テ彼レヲ打チ、頬ヲ傷ク「クビライ」。「アーメド」ノ傷ヲ見テ其原因ヲ問フ「馬ニ蹴ラレタルナリ」ト答フ「チン」傍ニアリ罵ツテ曰ク「汝ヲ打チタル者ヲ告クルヲ耻ツルヤ」ト「チン」又嘗テ、帝ノ前ニ於テ「アーメド」ニ鐵拳ヲ加ヘタルコトアリキ。

遂ニ、一、二、八二年、高官ノ王著ナル者、起チテ此國賊ヲ拂ハムトシ「クビライ」ト「チンキン」上都ニ往キテ在ラス「アーメド」都ニ留マリテ政務ニ當リツツアリシ時、一日、彼レ、太子都ニ歸レリト告ク、百官之ヲ迎フヘク宮殿ニ往ク「アーメド」死頭タリ、將ニ門ヲ過キムトスル時、王著棒ヲ以テ彼レヲ打殺シヌ「クビライ」之ヲ聞キテ大ニ怒リ、王著及其與黨ヲ捕ヘ、訊問シ、死ニ處ス「クビライ」。「アーメド」ノ葬式ノ爲メニ莫大ノ金ヲ集メ、大官ノ凡テニ參列ヲ命ス。然ルニ、彼レノコノ惨死シタル寵臣ニ對スル悲哀ハヤカテ激怒ニ變シヌ「クビライ」裝飾ノ爲メニ、一ツノ大ナル金剛石ヲ用キムト欲シタルカ、數日前、二人ノ商賈ヨリ美ハシク且大ナル金剛石ヲ購ヒ之ヲ「アーメド」

ニ託シ置キタルヲ思出シニ、偶々「アーメド」ノ本妻カ其金剛石ヲ所持セルヲ發見シタリキ。此事及其他ノ曲事ヲ發見シテ激怒セルニ、加フルニ「チンキン」ノ「アーメド」ニ對スル猛烈ナル非難ノ言ヲ聞キタル「クビライ」ハ、命シテ直ニ「アーメド」ノ死體ヲ掘リ出シ首ヲ刎ネテ之ヲ晒シ、胴ヲ犬ニ食ハシメヌ。又カノ金剛石ヲ帶ヒ居タル「アーメド」ノ妻ヲ其二子ト共ニ殺シ、他ノ四十名ノ妻ト四百名ノ妾ハ之ヲ諸臣ニ頒テ賜ヒ、又家産ヲ沒收シ、且ツ彼レニ依リテ地位ヲ獲、彼レカ帝ヲ欺クコトニ援ケタル輩七百名ヲ捕ヘテ、各其罪ニ應シテ處分シヌ。

「アーメド」死シテ「ウイグル」人「サンガ」(Sanga)僧格、理財ノ職ヲ襲ク。彼レハ「ラマ」ノ長ノ兄弟ナリ。彼レ「アーメド」ト同シク私曲ヲ逞フシツツ其職ニ在ルコト八年ノ後、漸ク「クビライ」ノ臣某之ヲ訐クヲ敢テシタリ。即チ、一日、狩ノ時、某、帝ニ「サンガ」ノ事ヲ語ル。帝、某ヲ以テ讒者トナシ答タシム。後、帝、某ヲ鞠シテ、汝ハ「サンガ」ヲ憎メル者ノ爲メニカノ言ヲナセルニアラスヤト問フ。彼レハ「サンガ」ヲ排セムトスル者ニアラス、只君ト國トノ爲メヲ思フノミト答フ。「クビライ」詮議ノ後、某ノ言ノ眞實ニシテ、他人ノ未タ之ヲ言ハサルハ「サンガ」ノ残酷ナル復讐ヲ恐ルルニヨルモノナルヲ知リス。是ヨリ後「サンガ」ハ全ク信ヲ帝ノ心ニ失フニ至リス。

一日、帝「サンガ」ニ「汝眞珠ヲ有スルヤ」ト問フ。「一ツモアラス」ト答フ。「クビライ」ニ寵セラレ、而カモ「サンガ」ヲ憎メル。「ベルシヤ」人アリ。急ニ到リテ帝ニ告ケテ曰ク「我レ」サンガ「カ多クソ眞珠及寶石ヲ所持セルヲ見タリ。帝若シ、少時、彼レヲ抑留シタマハハ我レ彼レノ家ヨリ多クノ眞珠ヲ取り來ラム」ト。帝之ヲ許ス。暫ラクニシテ、彼レ、價高キ眞珠ヲ充テタル箱二個ヲ携ヘ來ル。帝「サンガ」ニ謂ツテ曰ク「コハ如何ニ。汝カクモ多クノ眞珠ヲ持テルニ、ソノ二三ヲタニ我レニ與フルヲ欲セサルカ。汝、何處ニ於テ是等ヲ獲タルヤ」。是皆、支那ノ諸省ニ於ケル回教徒ナル總督カ贈レルナリ」ト答フ。「彼等ハ何故ニ我レニ一ツヲモ、贈ラサルヤ。汝ハ駄物ヲ我レニ與ヘ、良品ハ凡テ自ら取ルナリ」。「ソハ我レニ與ヘラレタル物ナリ。陛下ノ意志トナラハ、我レ凡テ之ヲ寄贈者ニ返サム」ト答フ。

帝、怒リ「サンガ」ノ口ニ糞ヲ充テ、審問ヲ經ルコトナク、直ニ之ヲ死ニ處シ、且其莫大ノ家産ヲ沒收ス。帝又「サンガ」ノ私曲ヲ摘發スルノ任ニ當レル者等ノ無能ヲ怒リ、御史（監察官）ニ、如何ナル刑ヲ以テ彼等ヲ罰スヘキカヲ問ヒ、御史等ノ決議ニ從ヒテ、彼等ノ官職ヲ剝ク。尙ホ、回教徒ナル總督二名及其他「サンガ」ノ惡事ニ關與セル者多數殺サレヌ。

カク「セイド・エ・ヂエル」死後約二十年間、支那ノ財務當局ハ其上長及部下ノ多クハ外國人ニシテ、彼等ハ皆誅求ニヨツテ己レニ權力ヲ握リタルモノトス。蓋シ金ヲ要スルコト無限、從ツテ之ヲ求メテ己マサル「クビライ」ハ、苟モ能フ限り國庫ノ收入ヲ增加スルニ耐ユル如キ者ナリセハ、ヨシ貪婪飽ナキ者ト雖之ヲ採リテ財務ヲ委ネ、權力ヲ與ヘタルナリ。是ニ於テカ、彼等ハ、之レカ爲メニハ誅求、僞證、沒收ハイフ迄モナク時トシテハ殺戮ヲモ行フニ憚ラサリキ。サテ「オルヂヤイ」(Orchi)トイフ者「サンガ」ノ後ヲ襲キヌ。

一二九四年四月「クビライ」大都ニ死ス。大都ハ今ノ北京ナリ。彼レ死スル時、齡八十、其領スル所ノ廣大ナル、一人ニシテカクノ如キモノ未タ曾テ世界ニ之アラサルナリ。彼レハ、其美ハシキ城ヲ建テタル外、廣ク國內ニ改良ヲ加ヘタル所甚多シ。其公ノ大事業數アル中ニ、特ニ擧クヘキハ大運河ナリトス。コハ首都ト豊饒ナル諸地方トヲ連絡シタルモノナリ。次キハ、卓レタル郵便制度ナリ「マルコポロ」ニ從ヘハ、主要ナル街道ハ盡ク北京ニ通シ是等街道ニハ各二十五哩、又ハ三十哩毎ニ驛舎アリ、而シテ其中ニハ馬四百頭（二百頭ハ牧場ニアリ、他ノ二百頭ハ即時ノ用ニ備フ）ヲ有スルモノナキニアラス。驛數一萬、ソノ爲メニ用キラルル馬三十萬頭ニ及フ。

脚夫ニ二種アリ、徒歩ノモノト騎馬ノモノト是ナリ。徒歩脚夫ハ各々帶ニ鈴ヲ著ケ、三哩毎ニ駐在ス。鈴ノ音聞ヘテソノ近ツケルコト知ラルルヤ、新ナル者直チニ之レニ代ルノ準備ヲナス。何ツレモ最大ノ速度ヲ以テ走ル。騎馬脚夫モ亦カクノ如クシ、二十四時間ニ四百哩ヲ行ク。但シ夜間ノ距離ハ晝間ヨリモ少カリキ。蓋シ夜間ハ徒歩ノ者炬火ヲ携ヘテ之レニ伴ヒタレハナリ。

「クビライ」ノ建エタル都ハ金ノ諸帝ノ都ノ附近ナリキ。マルコボロニヨレハ、城ノ周廻二十四哩、城壁ノ厚サ高サ各五十呎、各隅ニ廣大ナル稜堡アリ、各側ニ三門アリ、各門ハ一千ノ兵之ヲ守ル。皇居ハ二重ノ壘壁ヲ遶ラシ、外壁ハ一方哩ヲ圍ミ、彩色ヲ以テ戰爭ノ光景ヲ描ケリ。兩壁ノ間ニ遊園遊戯地アリ、中ニ四呎ノ高サノ鋪道通ス。内壁内ノ中央ニ宏壯ナル宮殿聳エタリ。

避暑離宮ハ上都ニアリ、施設大都ト似タリ。宮殿ヨリ程遠カラヌ所ニ小森アリ。ソノ中ニ竹ヲ以テ作レル一舎アリ。其柱ニハ金泥ヲ施シタリ。夏居ル爲メノ屋舎ナリ。此竹製宮殿ニハ二百筋ノ絹繩ヲ附ケ以テ容易ニ上下スルヲ得セシメタリ。

「クビライ」狩ヲ好ミ、各年四月、隊ヲ組ムテ大仕掛ニ之ヲ行フ。「マルコボロ」ニヨレハ、狩ノ長二人アリ、各長ノ下ニ一千人アリ、中、五百人ハ赤色、五百人ハ青色ノ衣ヲ着ク。

是等ノ者廣キ地域ヲ取圍ミ野獸ヲ狩リ入ル。凡テノ準備ナリタル時大汗一萬ノ鷹匠ヲ從ヘ、四頭ノ象ノ運フ一ツノ轎ニ乘リテ發ス。轎ハ裏ニ金ヲ塗リ表ハ獅子ノ皮ヲ蔽ヒタリ。狩場ノ附近ニ一萬ノ天幕ヲ建ツ。帝ノ大天幕ハ一萬人ヲ容ルルニ足リ一般ノ應接ニ充ツ。其傍ニ、私用ノ天幕アリ、帝ノ寢所トス。是等帝ノ使用スル天幕ハ凡テ獅子ノ皮ヲ以テ表ヲ蔽ヒ貂及鼬ノ皮ヲ以テ裏ヲ張ル。又是等ノ天幕ニハ數多ノ絹繩ヲ備ヘ付ケタリ。

蒙古宮廷ノ華美贅澤ナルコトハ今日ニ於テモ有名ナリトス。「クビライ」己レノ誕生日ニハ祝宴ヲ開キ多クノ贈物ヲ受ク。新年祝日ニ於テ亦然リ。贈物ノ數ハ能フ限り、九個ツツニ揃ヘタリ。之レ九ヲ以テ神聖ナル數トセラレシニヨル。是等大祝日ニハ馬十萬頭獻セラル。馬ハ各美ハシキ裝束ヲ着ケタリ。又其日ニハ五千頭ノ象ニ禽獸ヲ畫キタル布ノ裝束ヲ着ケ、之ヲシテ皇室ノ什器ヲ運ハシメ、マタ、其後ニ宴會ニ入用ノ品ヲ載セタル駱駝ヲ從ハシメ、何ツレモ衆ノ觀覽ヲ許シタリ。

諸王子及高官ノミ室内ニ集リ、他ノ者ハ皆室外ニアリ。席ニ著ク者アル毎ニ一吏起ツテ「跪拜セヨ」ト叫フ。衆、額ヲ地ニ附スルコト四回ス。又大汗ノ名ヲ誌セル牌ヲ載セタル壇ノ前ニ於テモ、同様ノ禮ヲナサシム。

饗宴ノ際、大汗ノ卓ハ他ヨリモ高ク、其即キタル時南ニ面スヘク据ヘ置キタリ。左方ニハ正妻、右方ニハ正腹ノ諸王子控ユ、但シソノ處ハ低クシテ之ニ居ル者ノ頭カ皇帝ノ足ヨリ高クナラサルヤウニセリ。諸大官ノ席ハ尙低ク、普通ノ客及兵士等ハ敷物ノ上ニ座ス。室ノ入口ニハ大兵ノ者二人居リテ、猥リニ入ラムトスル者アルトキハ、其衣ヲ剝キ強ク答テテ之ヲ罰ス。多クノ宮臣、徘徊シテ、接待カ順當ニ行ハレツツアルヤ否ヤヲ視察ス。大汗ノ卓ノ傍ニ一ツノ大ナル彫刻ヲ施セル臺アリ、香附ケタル酒ヲ盛レル大金杯ヲ載ス。其外尙ホ多クノ金杯アリテ、各杯十名分ノ酒ヲ容ル。又卓ノ上ニ酒ヲ盛レル大ナル鉢ト共ニ柄ノ附キタル杯アリ。鉢ハ各二人ノ間ニ一ツアリ。大汗ニ給仕スル者ハ口ト鼻ヲ、金繡シタル絹布ニテ蔽フ、是レ其息ニヨツテ大汗ニ不快ヲ與ヘサラシメム爲メナリ。大汗、杯ヲ唇ニ觸ルヘク擧クル時毎ニ伶人樂ヲ奏シ、諸王子及百官跪拜ス。

「クビライ」妻五名アリ。ジャンブイ・カツン「其長タリ。各己レノ室ヲ有シ、三百名以上ノ少女及多クノ童ト宦官之レニ仕フ」クンクラト「族ハ由來、女ノ美ナルニ名アリ。大汗ノ妻妾ハ大抵之レヨリ出ツ。大汗屢吏ヲ遣ハシテ數百ノ少女ヲ求メ、各其美ノ程度ニ應シテ其親ニ代價ヲ拂フ。少女宮廷ニ送ラルルヤ、老女若干之ヲ検査ス「ホロー」

曰ク「是等ノ老女ハ順次ニ是等ノ少女ト共ニ寢ネ其息氣ノ良否及手足ノ強弱ヲ試験ス」ト。此試験ヲ通過スル少數者ハ大汗ニ侍リ、餘ノ多數ノ落第者ハ或ハ賜ヒテ臣下ニ嫁セシメ或ハ宮廷ノ婢トナセリ。

當時ノ史家ニヨレハ「クビライ」ハ妻ジャンブイ・カツン「ノ感化ニヨリ「ラマ」教ノ信者トナリシカ、又好運ヲ求ムル爲メ、基督「モハメット」「モーセ」及釋迦ニモ祈願シ、之ヲ世界ノ四大豫言者トシテ尊敬シタリ。

「クビライ」體格中等、顔面美ハシク、眼黒クシテ炯々、性寛仁ナリキ。第四子「ヌムガン」ヲ嗣子ニ指名セシカ、彼レ「カイヅ」トノ戦ニ擒ニセラレシカハ、第二子「チンキン」ヲ後繼者ニ定メタリ。然ルニ、暫クノ後「ヌムガン」放タレテ歸ルヤ父カ「チンキン」ヲ太子トナシタルヲ難セシカハ、父ノ怒リヲ招キ追放セラレ、後間モナク死ス。「チンキン」亦父ニ先チテ死ス。

一二三八年、即チ「チンキン」死後八年、「チンキン」ノ妻「ゲクジン」(Queen)大將軍「バヤン」ヲシテ、帝ニ、太子死シテ帝未タ其後繼者ヲ定メサルヲ注意セシム。帝乃チ己レノ孫ナル「カラクルム」ノ總督「チムル」(鐵穆耳)ヲ太子ト定メ、「バヤン」ヲシテ此旨ヲ「チムル」ニ告ケ、相當ノ立太子式ヲ舉行セシム。

一二九四年二月「クビライ」ノ死シタル後、上都ニ於テ選舉ノ爲メ「クルルタイ」ヲ開ク。「チムル」該都ニ到ル。彼レハ正式ニ太子タルニ拘ラス、兄「カマラ」陰ニ帝位ヲ希求シ、諸將及支那人官吏ハ「チムル」ニ附キシモ諸王子ハ一時適歸ニ迷ヒ決セサリシカ、人物及職位ニヨリ「クルルタイ」ニ於テ大勢力ヲ有シタル「バヤン」遂ニ劔ヲ案シ、聲明シテ曰ク、我レハ「クビライ」カ選ヒタルヨリ外ノ者ヲ戴ク能ハスト。是ニ依リテ討議終結シ、「カマラ」弟ヲ跪拜ス。ヤカテ、他ノ諸王子皆之レニ倣ヒ「チムル」蒙古ノ大汗トナリヌ。

「チムル」先ツ己レノ兩親ヲ皇位ニ上ケ、次テ祖父クビライト祖母「ジャムブイ」ト父「チンキン」トノ爲メニ紀念碑ヲ建テ、「カマラ」ヲ蒙古ノ總太守トナシテ「カラクルム」ニ居ラシメ、義弟「ゲクヂュ」(Guekju)ト「クルグズ」(Kurguz)トヲ北境ニ於ケル「カイヅ」ト「ツア」トニ對スル征討軍ノ統帥トシ、己レノ從弟「アナンダ」(Ananda)ヲ黄河ノ西「タングト」ノ總督ニ任ス。而シテ「バヤン」フエンチヤン「Bayan Fenchang」宰相タリ。

「クビライ」ノ代ニ總大將タリシ「バヤン」一二九五年ノ始メ、齡五十九歳ヲ以テ死ス。彼レハ「オゴタイ」ニ顧問トシテ事ヘテ忠實ナリシ耶律楚材ト共ニ、其性高邁正直、蒙古史上之レニ及フ者アラス。此二人ハ共ニ常ニ人血ヲ流スヲ避クヘク勉メ、又共ニ

稀有ノ謙讓ノ徳ヲ備ヘタリキ。

「チムル」ノ代、著シキ出來事、只二ツアリシノミ。支那ト印度トノ間ノ地方ニ於ケル戰爭ト西方「カイヅ」ニ對スル戰爭ト是ナリ。

「チムル」嘗テ安南ノ王ト和シ、瓜哇討伐ノ爲メニ暫ラク塞カレタル印度トノ交通ヲ開ク。緬甸ノ王「チチャ」(Thiva)貢セサルコト數年ニ及ヒシカハ「チムル」之ヲ征スヘク大軍ヲ準備シツツアリシ時「チチャ」ノ子「シンホバチ」(Sinhobati)父ニ代リテ禮物及貢物ヲ携ヘ來レリ。「チムル」乃チ「チチャ」ヲ王「シンホバチ」ヲ其後繼トスル旨ノ證狀ヲ授ケ且虎ヲ彫リタル方形ノ印璽ヲ賜ヒ、緬甸ノ境ニ駐セル諸將ニ令シテ、同國ヲ尊敬シ、兩國間ノ交通ヲ保護スヘク命シタリ。

三年ノ後「チチャ」ノ弟「アサンコエ」(Asankoye)阿散哥也兄ヲ殺ス。「シンホバチ」來リテ援ヲ乞フ。「チムル」乃チ雲南ノ總督「セイチャウル」(Setchaur)薛綽爾ニ「汝緬甸ニ到リテ「アサンコエ」ヲ捕ヘテ我レニ致セ」ト告ケテ之ヲ遣ハセシカ、彼レ多クノ障礙ニ遭ヒテ雲南ニ歸リ、而カモ「我レ」凡テノ叛徒ヲ平ケタリ。然レトモ部下ノ將士ニ叛徒ヨリ賄賂ヲ受ケタル者アリシ故之ヲ誅シタリト傳フ。事露ハレ、彼レ貶斥セラレ家産ノ凡テヲ沒收セラレタリ。

緬甸ニ於ケル戦争ノ酣ナリシ頃「チムル」雲南ノ西「パベシフ」(Pabeshi)八百媳婦ノ地支那ノ曆ヲ奉セス且ツ支那ニ從ハサルヲ聞キ劉深ニ三萬ノ兵ヲ授ケテ往キテ之ヲ討タシム。然ルニ其兵間モナク進軍ノ困難ト炎暑ノ爲メ減シテ三分一トナレリ。劉深又雲南ニ於テ糧食及馬ヲ徵發セシカ之レカ爲メ山間ノ蠻族反抗ヲ企テ其會長宋隆濟衆ヲ率キテ劉深ヲ圍ミ深危シ會々「チムル」ノ叔父ニシテ雲南ノ總督ナル「フガツチ」(Hugatchi)兵ヲ遣ハシテ來リ救ヒ漸ク無事ニ退却スルヲ得タリ。

是ニ於テ帝劉國傑及「ヤンサイユブア」(Yang sai yu pua 楊賽ト音布哈?)ヲシテ四川雲南湖廣ノ兵ヲ集メテ往イテ劉深ヲ援ケシム。此時深ハ既ニ輜重ト多クノ兵ヲ失ヒテ或地點ニ逃レ居タリキ。

宋隆濟ノ徒勢愈猖獗ニシテ多クノ蠻族來リ附キ諸所ヲ劫掠ス。劉國傑急ニ進ムコトヲナサス新兵ノ來ルヲ待チ是等ト共ニ叛徒ノ地ニ入り討ツテ之ヲ破リ多クノ俘虜ヲ得タリ。俘虜ノ中ニ「チエチウエ」(Che tse we 漢字不明)トイフ者アリキ。彼女ハ最初ヨリ叛徒ノ一部ニ將トシテ戦ヒタル者ナリシカ忽チ容赦ナク殺サレタリ。

サテ北方ニ於ケル戦争ハ久シク續キタリキ。是ヨリ先キ一二九七年「チヨハウグ」(Chohaugur)父「ツツカ」ニ繼キテ帝ノ軍ヲ督シ「カイツ」及「ヅア」ヲ討チ概シテ優勢ナリ

シカ「ヅア」モ勝チタルコトナキニアラス。即チ「ヅア」ノ一隊嘗テ元軍ノ哨兵線ヲ犯ス。此線ハ騎兵ヨリ成リ南西ヨリ北東ニ張り急使ニヨリテ各部ノ間ノ連絡ヲ取り敵現ハルルヤ直チニ次ノ部ニ通告シ居タリシカ或夜三營所ノ將卒會飲セシニ深更ニ及ヒテ敵來レリトノ報ニ接シタリ。然ルニ皆醉ヒテアリシカハ直チニ馬ニ騎シテ之ヲ通告スル能ハス哨兵ノ指揮「クルグズ」(Kringuez)此事ヲ知ラス急遽兵六千ヲ以テ戦ヒシカ敵ノ攻撃極メテ猛烈而カモ援兵到ラザリシカハ奮闘效ナク已ムナク逃ケシモ追及ハレ擒トナル。時ニ彼レハ皇帝ノ義兄弟ナリ「トイフ」此言徒ラナラス命ヲ赦サルルヲ得タリ「チムル」カノ醉ヒテ任務ヲ怠リタル三將ヲ鐵鎖ニ縛セシム。然ルニ會々二王子「ユブクル」(Yubukur)ト「ウルスブガ」(Ulus Buga)及將軍「ヅルツカ」(Durduka)二百名ノ兵ト共ニ「ヅア」ニ叛キテ元ニ降リシカ此三名ハ「クビライ」ノ時元ニ叛キテ敵ニ往キタル者ナリシカハ「チムル」之ヲ信セス兵ヲ送リテ監禁セシム。

「ウルスブガ」ノ友人等彼レノ爲メニ請フ所アリヨツテ命ヲ救フヲ得タリシモ彼レハ「カラクルム」ヨリ兵ヲ派シテ掠奪ヲ行ヒタルヲ以テ帝遂ニ彼ヲ任用スルヲ欲セサリキサレト「ユブクル」ハ優待セラレタリ又「ヅルツカ」ハ前ニ二回叛キタルコトアルニヨリ死ヲ宣告セラレシカソノ時彼レ涙ヲ流シテ曰ク我レ恐レテ一時「クビラ

イヲ離レタルコトアルモ「クビライ」ニ對シテ戦ヒタルコトアラス「チムル」ノ代トナリテ、我レハ二王子ニ説キテ帝ニ歸ラシメ、且ツ我携ヘ去リタルヨリモ多クノ兵ヲ以テ歸リ來リ、以テ敵ヲ討タムト謀レルナリト。

帝乃チ「ヅルヅカ」ヲ宥シ、且ツ兵ヲ授ケテ「ヅア」ヲ攻メシム。ユブクル「亦共ニ往クヲ許サル。二人ハヨク「ヅア」ノ方ヲ知レルヲ以テ、大ニ功ヲ樹テムト期ス。サテ「ヅア」「クルグズ」ニ克チタル後、徐々歸路ニ向ヒ「アナンド」、「アチキ」(Achik)「チヨバイ」(Chobai)等「カウイグル」地方「カラコヂヤ」(Karakodja)ノ邊ニ在ルヲ襲ハムト欲シ、或河ヲ渡ルヘク準備シツツアリシ時「ヅルヅカ」不意ニ現ハレテ之ヲ撃チ破リシ爲メ、斬リ殺サレ又ハ溺死シタル者少カラサリキ。

一三〇一年「カイヅ」「ヅア」及諸王子四十名―何ツレモ祖父及祖叔父「ジャガタイ」ノ子孫―ト兵ヲ合セテ來リ寇ス。其兵數ノ多キコト彼レニ取リテハ空前ナリキ。是ヨリ先キ「チムル」ノ甥「カイシヤン」(Khaishan 海桑)來リテ「ユエチャル」(Yuechar)ト「チヨハウグル」ニ就キテ兵ヲ學ヒツツアリタリシカ、彼レ直ニ其地方ニ駐在セル兵五軍ヲ集メテ「カラクルム」ト「タミル」(Tamin)河トノ間ニ戰フ。史家「ワサフ」(Wasaf)ニヨレバ、此戦ハ「カイヅ」ノ勝ニ歸シタリトイフ。サレト彼レハ西方ニ向ヒ歸路ニ就キ途中死

シタリトノ事實ハ寧ロ彼レノ敗レタルヲ證スルカ如シ「カイヅ」ハ自ラ大汗ト稱シ、以テ「ジンギス」ノ遺志及「クルルタイ」ノ最初ノ決議ニヨリ己レニ屬スル蒙古ノ主權ヲ掌握セムト志シタル者ナリ。彼レ若シ、今數年存命セハ恐ラクハ其志ヲ果タスヲ得タリシナラム。何トナレハ「チムル」ノ後、元ノ諸帝ハ益劣等トナリテ管ニ凡庸ナルノミナラス、寧ロ愚憐レムニ耐ユル程ノモノナリシニ反シ「カイヅ」ハ文武ヲ兼ネタル人物ナレハナリ。彼レハ西方ニ於テ人望アリ、部下ノ將卒亦蒙人間ニ聲譽アリキ。彼レ性寛仁、衆ノ推ス所トナリ、其勇剛ト身體ノ强健トハ驚嘆ニ値スルモノアリキ。彼レ四十男、一女アリ。此一女、名ヲ「アイヤルク」(Aiyark)「輝ケル月」トイフ。美ナルニヨツテヨリモ、腕力アルコトニヨツテ更ニ名アリ。ソノ當時ノ蒙古人ノミナラス、周圍ノ諸國ニ於テモ彼女ノ右ニ出ツル者ナシ。彼女、我レト相撲ヒテ克チタル男子ノ外、我レ嫁セスト宣ス。「カイヅ」嘗テ「相撲」ニ於テ我獨リ娘ニ克チタル者アラハ之レヲ其者ニ嫁セシムヘシ、負ケタル者ハ馬百頭ヲ取ラレヘシト普ネク告ケタルニ、我レト思フ者陸續來リテ百名ニ及ヒシモ何ツレモ負ケ、彼女ハ一萬頭ノ馬ヲ獲タリ。サテ、百人ノ後ニ遠國ヨリ一傑物現ハレヌ。彼レ年尙若ク未嘗テ力ヲ角シテ敗レタルコトナカリシヲ以テ必勝ヲ期シ、百頭ナラス千頭ノ馬ヲ携ヘ來レリ。「カイヅ」ト彼女

ノ母ト此青年ヲ見テ大ニ悦ビ、彼女ニ、汝勝ヲ讓ルヘシト告ク、彼女彼レ我レヲ倒スニアラサレハ我レ屈セサルヘシ。彼レ若シ勝タハ我レ彼レニ嫁セムト答フ。乃チ日ヲ期シテ相撲ハシム。看ル者堵ノ如シ。二人ヤカテ庭ニ下リテ相撲フ。久シク勝敗決セサリシカ、遂ニ女、男ヲ倒シタリ。負ケタル青年、暫ラク茫然自失ノ體ナリシカ、ヤカテ起テ、馬一千頭ヲ後ニ殘シ、從者ト共ニ急遽出テ去リヌ。

「カイヅ」死シ、兵士慟哭ス。「ゾア」「カイヅ」ノ遺志ヲ奉シ、棺ノ周圍ニ立テル諸王子ニ長子「チャバル」(Chabar) 徹伯爾ヲ立テムコトヲ建議ス。「チャバル」ハ當時此席ニアラサリキ。蓋シ「ゾア」ハ「チャバル」ニ負フ所少カラサル者、「ボラク」ノ死セシ時、其一族、例ニヨリ「カイヅ」ノ許ニ集マリシカ、「ゾア」ハ「ジャガタイ」ノ子孫中ノ最年長者ナラサリシモ、「チャバル」ノ力ニヨリ其後ヲ繼クヲ得タルナリ。サテ、列席者何ツレモ、「ゾア」ニ同意シ、諸王皆人ヲ遣ハシテ「カイヅ」ノ葬式ニ参加セシム。

「チャバル」ヤカテ到リ、諸王子「ゾア」ト共ニ之ヲ「カイヅ」ノ後繼者トシテ拜跪ス。カクテ「チャバル」、「オゴタイ」ノ領地ニ王トナルヤ、「ゾア」建議シテ曰ク、須ラク「チムル」ニ服從シ、以テ「ジンギス」ノ家族ノ間ニ三十年間續キタル軋轢ヲ絶滅セムト、「チャバル」及他ノ凡テノ王子之レヲ諾ス。乃チ速ニ使ヲ遣ハシテ「チムル」ニ降服ヲ請フ。「チムル」天

ニ悦フ。其權今ヤ其血族ノ凡テノ認ムル所トナリタレハナリ。

然ルニ、此平和ハ長ク續カサリキ。次年「チャバル」ト「ゾア」及其各側ノ子孫互ニ爭ヲ生シ、一三〇六年「ゾア」ハ「チムル」ニ勸メテ「チャバル」ヲ攻メシム。「チャバル」ノ部下、忽チ叛キ去ル者多シ。「チャバル」大ニ窮シ、往キテ「ゾア」ニ援ヲ乞フ。「ゾア」禮ヲ厚クシテ之ヲ迎ヘタルモ、其領「トルコスタン」ヲ奪ヒテ之ヲ「トランソキンニヤ」ニ併合ス。是ニ於テ、「カイヅ」ノ分割シタル「ジャガタイ」ノ領地ハ今ヤ再ヒ、殆ント全ク舊ノ如ク統一サレヌ。

カクテ「チャバル」ハ「カイヅ」ノ後繼者トシテ「オゴタイ」ノ子孫中ノ最後ノ王ナリシナリ。蓋シ「オゴタイ」ハ「ジンギス」ヨリ蒙古ニ於ケル主權ヲ授ケラレ、「オゴタイ」ノ子孫ハ「ジュチ」ノ子「バツ」ノ爲メニ侵掠セラレシモ、「カイヅ」ノ才幹ト活動トニヨリテ廣大ナル地域ヲ贏チ得タルモノトス。

「ボラク」ノ子「ゾア」一三〇六年死シ、子「グンデユク」(Gunduk) 後ヲ襲キシカ權勢ヲ保ツコト僅カニ一年有半ニシテ其死後、國ハ「ジャガタイ」ノ裔「モアタガン」(Motagan) ノ後「タリク」(Talik) ノ奪フ所トナレリ。「タリク」ハ鬪争ノ中ニ年老ヒタルカ、彼レハ回教徒ニシテ蒙人間ノ布教ニ努メタリ。

此間ニ「ジャガタイ」ノ裔ナル二王子、國ハ「ヅア」ノ子カ嗣クヘキモノナリト唱ヘ、劔ヲ手ニシテ起チシカ敗レタリ。然ルニ、衆此敗ニ報ヒムト準備シツツアリシ時、「ヅア」ノ子ヲ立テムト欲スル人々或宴會ニ於テ「タリク」ヲ殺シ、ヤカテ「ヅア」ノ末子「ゲベク」(Gebek)ヲ立ツ。實ニ一三〇八年ナリ。彼レ即位スルヤ間モナク、「チャバル」(カイヅ)ノ裔ナル諸王子ト結ヒテ彼レヲ討チシカ敗レ、僅ニ從者數名ト共ニ「イリ」(三河)ヲ渡リ元ノ地ニ逃レ入リス。「チャバル」ノ此失敗ニヨリ「オゴタイ」ノ子孫ハ凡テノ望ミヲ失ヒシカ、「ジャガタイ」系ノ者等ハ「クルルタイ」ヲ開キ「ゲベク」ノ兄弟「イツセン・ブガ」(Ischen Buga)ヲ選ヒテ君トス。當時元ノ地ニアリタル「ブガ」ヤカテ來リ、「ゲベク」悅ヒテ之レニ位ヲ讓ル。「イツセン・ブガ」ノ死後、年時未詳、「ゲベク」權ヲ執レリ。

「トルキスタン」地方ト「トランソキヅ」ニヤハ此種ノ戰爭ノ爲メニ全ク荒廢ニ歸シヌ。固ヨリ薄弱ナル君主ノ下、隆盛ノ望マルヘキナク、事成ラムトシテ忽チ破ラル。カクテ此國ハ混亂ト流血ト無政府状態トノ中ニ過キ去リス。

一三〇七年、大汪「チムル」大都ニ於テ死ス。治世十三年、齡四十二、病革マルヤ。四十二日間殺生禁斷ノ令ヲ發シタリシカト遂ニ死シタリ。彼レノ仁慈ト賢明トハ支那人ノ賞讃スル所ナルカ、實際、或度マテハ仁慈ナリシカ如シ。由來、「ジンギス」ノ諸王子及

王女ハ其下ノ臣民ニ對シ絶對無限ノ權ヲ有セシカ。「チムル」ノ時ニ至リテ、皇帝ノ許ナクシテ何人ヲモ殺スコトヲ禁シタリ。帝又大都ニ國立大學ヲ設立シ、宏壯ナル孔子ノ廟ヲ建テヌ。

「チムル」即位前ニハ、其族ノ多クノ者ノ然リシ如ク、飲酒量ナカリシカハ祖父「クビライ」屢之ヲ叱責シ、鞭ツコト三回ニ及ヒ、尙ホ醫ヲ遣ハシテ過度ノ飲酒ヲナササルヤウ監督セシメシカ、彼レノ浴ニ侍スルヲ任トスル鍊金家、水ノ代リニ酒類ヲ浴槽ニ充テタリ。「クビライ」之ヲ聞キ、鍊金家ヲ遠謫ニ處シ、途中之ヲ殺サシメヌ。サレト「チムル」ハ一旦位ニ即クヤ、斷乎トシテ杯ヲ手ニスルコトナカリキ。

第十九章 蒙人支那ヨリ驅除セラル

「チムル」帝子ナシ。帝ノ晩年ニ於テ大勢力アリタル皇后「ブラガン」(Balgan)「クビライ」ノ孫ニシテ「マンカラ」(Mangala)ノ子ナル「アナンダ」ヲ立テムトノ志アリ。「アナンダ」ハ當時大守トシテ「タングト」ニアリ。當時ノ「タングト」ハ今ノ陝西ト西藏及四川ノ一部ヲ包含シタリ。「チムル」ノ死床ニアルヤ、「ブラガン」陰カニ「アナンダ」ヲ都ニ招ク。彼女「チンキン」ノ子「タルマバラ」(Tarnabala)ノ二子「カイシヤン」(海山)ト「バトラ」(Batra)ト刺又

ハ八達ヲ排セムト欲シ二人ノ母ヲ朝鮮ニ謫ス。カイシヤンハ當時監察軍ヲ率キテ西北ノ境ニアリ。カイヅトノ戦争ニ勇敢ト聰明トヲ以テ聞ユ。バトラハ母ニ從ヒテ朝鮮ニアリ。

帝死シ攝政トナリタル「ブラガン」カ「アナンド」ヲ立テムトスルヤ、宰相「アグタイ」(Agutai)等之ヲ援ク。ブラガン「カイシヤン」ノ大都ニ來ルヲ妨ケムカ爲メニ蒙古ノ諸路ニ兵ヲ派ス。然ルニタルマバラノ諸子ニ與ミスル輩アリ「カラカス」(Karakas)其長タリ。彼レ陰ニ使ヲ「カイシヤン」ニ遣ハシテ、敵兵ニ遭ハサルヘキ途ヲ教ヘ、速ニ來ルヘシト告ク。又「バトラ」モ招キシカ「バトラ」ハ速ニ母ト共ニ來レリ。此間ニ「アナンド」ノ與黨ハ既ニ即位ノ日ヲ定メタリ。

「カイシヤン」黨今ハ躊躇スヘカラサルヲ見タルモ「カイシヤン」尙遠隔ノ地ニアリ、待ツ能ハス。是ニ於テ「王子」ツル「Timu」己レノ下ニアル大軍ヲ率キ來リ「アナンド」黨ノ領袖ノ一ニシテ「アリク・ブガ」ノ子ナル「メリク・チムル」(Melik Timur)ヲ捕ヘテ鐵鎖ニ繋キテ上都ニ送り幽閉ス。(メリク・チムル)ハ先キニ「チャバル」ノ軍ニ從ヒシカ叛キ逃ケテ元ニ歸シタル者ナリ。「アナンド」黨ノ「アグタイ」等亦捕ヘラレ、任意ニ帝位ヲ左右セムトシタルノ罪ヲ以テ死ヲ宣告セラレシカ、執行ハ「カイシヤン」ノ來著迄猶豫

シタリ。「ブラガン」ト「アナンド」モ宮中ニ監禁セラル。同族ノ王子等「バトラ」ニ位ニ即カムコトヲ請ヒシモ、彼レハ、コハ兄ノ權利ニ屬スヘキモノナリトイヒテ應セズ。國璽ヲ「カイシヤン」ニ送り、其來ル迄自ラ政ヲ攝ス。

「カイシヤン」ヤカテ急イテ「カラクルム」ニ到リ諸王子及諸將ト議ス。彼レ兵士ノ間ニ人望アリ。兵士等彼レノ蒙古ニ於テ位ニ即カムコトヲ請ヒシモ彼レ之ヲ聽カス。精兵三萬ヲ率キテ上都ニ往ク。彼レ又母ト弟ニ書ヲ送リテ即位式ニ列席セムコトヲ請フ。「バトラ」直チニ到ル。ヤカテ「カイシヤン」上都ニ於テ諸王子及諸將ヲ會シテ「クルタイ」ヲ開キ選ハレテ位ニ登リ「クルク」汗(Khukh)ト稱シ、母ヲ皇太后トシ、亡父ニ皇帝ノ稱號ヲ贈リ、同時ニ弟ノ功勞ヲ認メ、己レノ子アルニ拘ラス、弟ヲ繼位者トナス。「カイシヤン」先ツ祖先ノ廟ヲ祭リ、尋テ「アナンド」ノ與黨ニ對シテ「バトラ」ノ下シタル判決ヲ實行ス。即チ「ジンギス」一家ノ承諾ナクシテ帝位ヲ定メムトシタリトノ廉ヲ以テ「アナンド」、「メリク」、「チムル」及皇后「ブラガン」ヲ誅ス。

「カイシヤン」孔子ノ書及多クノ佛典ヲ蒙古語ニ翻譯セシメタリシカ、此一事ヲ除キ、凡ソ彼レノ政治ハ皆ニ愚劣ナリシノミナラス實ニ有害ノモノナリキ。彼レ極端ニ「ラマ」僧ヲ庇護シ、支那人ノ怨ヲ買ヒタリ。其令ニ曰ク「ラマ」僧ヲ毆ツ者ハ其手ヲ斷

チ之ヲ罵ル者ハ其舌ヲ截ルヘシト。彼レ、酒色ニ耽リ、一三一一年、齡三十一ヲ以テ死ス。弟「バトラ」(カイシヤン)ノ子ヲ繼位者トスルノ約ノ下ニ、位ヲ受ク。乃チ饗宴ヲ張ル。ゴト七日、星占家ヲシテ吉時ヲ選ハシメ、玉座ニ即ク。稱シテ「バヤンツ」(Bayantu) 札牙篤(トイフ。彼レ即位後間モナク、先帝ノ無能ニ乘シ私腹ヲ肥ヤシタル諸大臣ヲ或ハ誅シ或ハ遠謫ス。

「クビライ」ノ命令アリシニ拘ラス、科擧ノ制久シク行ハレサリシヲ「バヤンツ」帝ニ到リテ之ヲ復活シ、學徒ノ悅ヲ買ヒタリ。彼レ又宦官ヲ用ユルコトヲ禁シタリシカ、次年(一三一五)自ラ其規則ヲ破リ、一宦官ヲ大官ニ任シタリキ。彼レハ自ラ學者ニシテ、學問ヲ獎勵シ學者ヲ優遇ス。當時、有名ナル學者少カラス「チヤハン」(Chahan) 趙復、號江漢(ノ如キハ其隨一ナリ)。

然ルニ茲ニ一大事件起リテ元朝衰微ノ端ヲ開キヌ。他ナシ、同族間ニ於ケル皇位繼紹ニ關スル葛藤是ナリ。始メ「バヤンツ」(クルク) 汗即チ「カイシヤン」ノ長子「クシヤラ」(Kushala)ヲシテ位ヲ繼カシムルノ約ノ下ニ自ラ位ニ即キシニ拘ラス、其後「クシヤラ」ヲ雲南ニ送り其總督トナセリ。「クシヤラ」ノ家臣等之ヲ以テ左遷トナシ、陝西ヲ過クル時蒙古ノ諸將ニ説キテ、起ツテ「クシヤラ」ヲ援ケシム。然ルニ間モナク、諸將、叛キ去

リシカハ「クシヤラ」(アルタイ) 山ノ地方ニ走り「ジャガタイ」ノ諸汗ニ其身ヲ寄ス。「バヤンツ」乃チ己レノ子「シユヂ」(Shudi) 碩德八剌ヲ立テテ太子トス。

一三二〇年「バヤンツ」死ス、齡三十有餘。

帝ノ最初ノ宰相ハ「テムダル」(Temudar) 鐵木迭兒(トイフ蒙古人ナリシカ、彼レ私曲ヲ逞フシ衆ニ憎マレ、遂ニ御史ノ訴フル所トナリ死ノ宣告ヲ受ケシモ、彼レヲ寵シタル皇后之レカ執行ヲ猶豫セシム。其間ニ帝死シ、皇后再ヒ彼レヲ採リテ凡テノ官職ヲ復シタリ「シユヂ」(Shudi) 繼キテ立チ「ゲゲン」汗(Gheghen Khan)ト稱ス。彼レ父ノ死ヲ悼ミテ食ヲ斷チ多クノ金ヲ施與ニ費シタリ。彼レ母ヲ憚リ、自ラ「テムダル」ヲ除ク能ハス、政事ヲ「バイヂユ」(Baichu) 拜住ニ委ヌ。「バイヂユ」ハ「ジンギス」ノ名將「ムクリ」ノ裔ナリ「テムダル」職ニ復スルヤ意ノママニ己レノ敵ニ報ユル所アリシカ、一三二二年其死スルヤ、衆起ツテ其罪ヲ鳴ラセシカハ、帝彼レノ爵位ヲ剝キ、墓ヲ發キ家産ヲ沒收セシメシニ、其與黨、特ニ其子「テクチ」(Tektu) 特克錫等、帝及宰相「バイヂユ」ヲ殺シ「クルク」汗ノ弟「カマラ」ノ子ナル「イツスン」(Issun) 伊遜特穆爾又ハ也孫鐵木兒ヲ立テムト謀リス。

「テクチ」陸軍總監トシテ兵士ノ間ニ大勢力アリ。彼レ、當時「ツラ」(Tula)ニ在ル「イツス

ンチムルニ陰ニ「ワルス」(Walus)トイフ者ヲ遣ハシタリ「ワルス」ノ携ヘタル書簡ニハ十六名ノ連署アリテ「イツスン」ヲ立テムトスル企テヲ詳記シタリ。然ルニ「イツスン」ハ「ワルス」ヲ捕ヘ、直チニ使ヲ以テ帝ニ此陰謀ヲ告ク「テクチ」等謀ノ漏レムヲ虞レ、「イツスン」ヨリノ回答ヲ待タスシテ急ニ事ヲ舉クヘク決ス。帝、上都ヲ發シテ大都ニ向ヒ、途、南坡ニ宿リシカ其夜、叛徒先ツ「バイヂユ」ヲ殺シ、次テ帝ノ幄ニ侵入シ、「テクチ」自ラ之ヲ殺ス。之レ實ニ蒙古朝ニ於ケル弑逆ノ最初タリ。時ニ帝、年僅ニ二十一。二王子「アンタイ・ブガ」(Antai Buga 阿爾臺布哈)ト「エシエン・テムル」(Yesien Timur 額森特穆爾)繼、殺ヲ奪ヒ取りテ之ヲ「カマラ」ノ子「イツスン・テムル」ニ呈ス。「イツスシ」乃チ「ケルロン」河畔ニ於テ帝位ニ即キ、大赦ヲ行フ。

彼レ即位スルヤ、先ツ「テクチ」等ノ功ヲ認メ、之ヲ高職ニ置カムト欲セシカ、老臣其不可ヲ説イテ曰ク、カクノ如クムハ衆ヲシテ帝カ同謀者ナリシ如ク疑ハシメムト、帝之ヲ然リトシ「エシエン・テムル」及他ノ二名ヲ捕ヘ、先帝ト「バイヂユ」ノ殺サレタル所ニ於テ斬ラシメ、次テ二名ノ吏ヲ遣ハシテ「テクチ」及其與黨並ニ彼等ノ家族ヲ戮シ且家産ヲ沒收セシム。

「テムダル」ノ子「ソナン」(Soran 鎖南)ハ遠流ノ刑ヲ宣告セラレシカ、諸臣「ソナン」カ劔

ヲ以テ「バイヂユ」ノ肩ヲ斬リタルコトヲ告ケシニヨリ、他ノ者ト同シク誅セラレ、陰謀ニ與ツカリタル同族ノ諸王子各諸所ニ流サレタリ。

一二三二年十二月「イツスン・テムル」大都ニ入り、次年春、己レノ子「アスケバ」(Asketa 阿蘇奇布)ヲ立テテ太子トス。帝、凡庸、其在位ノ間、何等著シキ事ヲナサス、三十一歳ニシテ死ス。サテ「アスケバ」ハ長子ニシテ太子ナリシモ、皇位繼承ニ付テハ競争者ナキニアラサルナリ。蓋シ、カノ「バヤンツ」カ「クルク」汗ニ繼クヤ「クルク」ノ子ヲシテ己レノ後ヲ襲カシムヘキヲ約シタルニ拘ラス、己レノ子ヲ太子トシ「クルク」ノ二子ト「ブチムル」(Tobtimur 圖卜特穆爾)又ハ「圖帖睦爾」ト「クシヤラ」(Kuslata 和錫拉)トヲ遠地ニ逐ヒシカ「テクチ」等ノ陰謀成效シタル頃ハ「クシヤラ」ハ南支那ニ、「トブチムル」ハ「アルタイ」山ノ西ニ居タリキ。

カクテ「イツスン・テムル」ハ二人ノ不在ニ乘シテ、位ニ登リシカ、五年ノ後、上都ニ於テ死シタリ。

帝死スルヤ、皇后、各部ノ印綬ヲ取ルヘク、大臣「ウベタラ」(Ubeta 烏伯都刺)ヲ大都ニ遣ハス。彼女ノ子「アスケバ」ハソノ時九歳ナリシカ、彼レハ五歳ノ時既ニ太子トナサレタル者ナリ。然ルニ大都ノ總督「ヤンチムル」(Yang timur 雅克特穆爾)又ハ燕鐵木兒ハ

「クルク」汗ノ子ヲ立テムトスルノ志アリ。蓋シ彼レハ「チョアフグル」(Chahugur)ノ子ニシテ軍人トシテ衆ニ拔シ、加フルニ父祖ノ名聲ヲ以テス。クルク「汗」風ニ彼レヲ擧ケテ高官ニ登ラセ之ヲ寵シタリ。ヨツテ彼レハ一ツハ報恩ノ爲メ一ツハ自利ノ爲メ「クルク」汗ノ子ヲ立テサルヘカラサルヲ思ヒタルナリ。サテ數月前「イツスンチムル」ノ上都ニ往クヤ「ヤンチムル」命セラレテ大都ノ總督トナリシカ「ウベタラ」ノ來ルヤ、彼レ大官ヲ宮中ニ招キ、告ケテ曰ク須ラク「クルク」ノ子ノ一ツヲ立ツヘシ。從ハサル者ハ誅セムト。ヤカテ「ウベタラ」及其他ノ高官ヲ捕ヘテ、其官職ヲ剝キ、己レノ腹心ヲ以テ之レニ代ヘ、未タ彼レノ志ヲ知ラサル兵士等ヲシテ南面シテ地ニ額ツカシム。是レ、彼等ニヨリテ當時南京ニ在ル「トブチムル」ヲ皇帝トセムトスルノ意ヲ示シタルナリ。ヤカテ、彼レ「トブチムル」ヲ促カシテ急キ大都ニ來ラシム。

「ジンギス」ノ裔三名ト十四名ノ高官「ヤンチムル」ノ擧ヲ憤リ之ヲ殺サムト謀ル「ヤンチムル」之ヲ知り十七人ヲ捕ヘテ盡ク之ヲ殺ス。

此間ニ皇后ハ「アスゲバ」ヲシテ、上都ニ於テ即位セシメ「カマラ」ノ孫旺辰ヲ宰相トシ、又「カンカリ」人ニシテ大臣タル「トト」(Toto) 朶朶^トノ子「タチエチムル」(Tache timur) 答失鐵木兒^トヲ軍ニ將トシ、上都ヲ孤立セシムヘク既ニ他ノ重要ナル地點ヲ取リツツ

アリタル「ヤンチムル」ヲ討タシム。

此時「トブチムル」大都ニ入り、大臣「ウベタラ」ヲ誅シ「ヤンチムル」カ監禁シ置キタル「トト」等ヲ流ス。「ヤンチムル」乃チ「トブチムル」ニ即位ヲ勸ム。彼レ曰ク兄「クシヤラ」コソ正當ニ立ツヘキ者ナレ、況ンヤ功勞多キヲヤト。サレト途ニ「クシヤラ」ノ來著マテトノ約ノ下ニ即位シ、詔シテ曰ク兄來ラハ必ス位ヲ讓ラムト。

國既ニ建ツ「ヤンチムル」乃チ「アスゲバ」ノ軍ヲ討ツヘク遼東ニ進ミシカ、旺辰カ上都ヲ發シ大都ニ向ヒ、途中既ニ一城ヲ取リタルヲ聞クヤ急ニ轉回シテ辰ヲ撃テ蒙古方面ニ敗走セシム。然ルニ内地ノ諸將ハ「アスケバ」ニ附ク者多ク「テムク」(Temuk) 托克托^トハ南方ヨリ大軍ヲ率キテ河南ニ進ミ、王子「ココホア」(Kokohoa) 庫庸布哈^トハ陝西ヨリ進ムテ潼關ヲ取ルト同時ニ「エツセンチムル」(Yessen timur) 額森特穆爾^トモ該省ニ於テ「アスケバ」ヲ奉スル旨揚言シ大都ニ向フ。「ヤンチムル」是等凡テノ敵ト會戰シ盡ク之ヲ破ル。特ニ「エツセンチムル」ハ大都ヲ距ル四里ノ地ニ於テ大敗シ其兵全滅シタリ。

「ヤンチムル」ノ叔父ニシテ遼東ノ境ニ於ケル凡テノ兵ノ總將タル「ブカチムル」(Bu-ka timur) 布哈特穆爾^ト「トブチムル」ノ即位ヲ聞キ王子「ユエル・チムル」(Yuelu Timur) 伊噶又

ハ月魯特穆爾ヲ招キ兵ヲ率キテ來リ合セシメ共ニ往キテ上都ヲ圍ム。上都ノ總督「タオラチユ」[Tao la chu] 道拉錫屢々「アスケバ」ノ與黨ト共ニ出テテ戰ヒシモ利アラズ、降り、國亂ヲ「アスケバ」所有ノ寶玉ノ多クト共ニ交付ス。「アスケバ」間モナク死ス、但シ如何ニシテ死セシカヲ知ル者ナシ。遼東ノ總督「テムク」亦劔ヲ手ニシテ討死ス。今ヤ上都ヲ取リタル「ユエルチムル」國運ヲ奉シ太后ト共ニ大都ニ往ク。「タオラチユ」エツセンチムル及其他多クノ高貴ノ俘虜伴ヒタリ。ヤカテ、太后ハ北直隸ノ或地ニ誦セラレ、「タオラチス」旺辰「エツセンチムル」等ハ大都ニ於テ誅セラレキ。

上都陷落ノ報普ネク國內ニ傳ハリ、「アスケバ」ノ徒全ク鎮定ス。

「トブチムル」、「ゴビ」沙漠ノ外ニアル「クシヤラ」ニ使ヲ遣ハシテ、事ノ顛末ヲ告ケ、速ニ來ラムコトヲ請フ。「クシヤラ」恰モ弟ノ言ヲ信セス、危險ノ己レノ前ニ存スルモノノ如ク、極メテ徐々トシテ進ミシカ「カラグルム」附近ニ到リ即位ヲ宣ス。「トブチムル」宰相ヲ同地ニ遣ハシ國璽及皇帝ノ衣服徽章ヲ献セシム。「クシヤラ」喜テ禮ヲ以テ之ヲ迎ヘ其去ルニ臨ミ、謹ムテ命ニ從フ旨「トブチムル」ニ傳フヘシトイフ。カクテ、彼レ位ニ即キ諸大臣ヲ任命シ、其一ツヲ「トブチムル」ニ遣ハシ、「トブチムル」ヲシテ己レノ後ヲ繼カシムヘキ旨ヲ告ク。

「トブチムル」ト宰相「ヤンチムル」直チニ上都ニ到リ新帝ヲ城ノ稍北ノ地ニ迎ヘ、其夜、宴ヲ開ク。宴中、帝俄ニ病ミ、數日ノ後死ス（一三二九年）或ハ言フ「ヤンチムル」ノ毒殺ニ因ルト。帝死スル時、齡三十。明宗ト諡ス。

明宗死シ八日ヲ經テ「トブチムル」再ヒ即位ス。

サレト彼レノ在位ハ、短カリキ。其間、殆ント重大事件アルナク、只同族ノ王子ニシテ雲南ノ總督タル「ツキエン」[Tukien] 圖記ノ叛シタルアルノミ。彼レハ一三三〇年、雲南王ノ稱ヲ授ケラレシモノナルカ、亂ハ翌年ニ至リテ平キタリ。「トブチムル」ハ前ノ二帝「イツスンチムル」及「クルク」ト同シク佛教ノ保護ニ勉メ、莫大ノ費ヲ投シテ寺院ヲ建テ又「ウイグル」ヨリ有名ノ「ラマ」僧「ニエン・チン・キラス」[Nien chin king] ヲ招キ、皇帝ノ師ト呼ヒタリ。彼レノ來リシ時、帝高貴ノ者ヲシテ之ニ接見セシム。彼等順次ニ跪キテ禮シ、盃ヲ献ス。「ラマ」之レニ對スルノ禮ヲナスコトナク之ヲ受ク。一儒之ヲ見テ憤リ謂ツテ曰ク「汝ハ釋迦ノ弟子ニシテ凡テノ和尙ノ首ナリ。我レハ孔子ノ弟子ニシテ凡テノ儒者ノ首ナリ。而シテ孔子ハ決シテ釋迦ニ劣レル者ニアラス。サレハ我等ノ間ニカカル禮ノ差別ヲ要セサルナリ」ト「ラマ」笑ヒ起テテ彼レノ献スル盃ヲ受ケタリ。「ラマ」及「ウイグル」人ハ、カクノ如ク帝ニ愛護セラレタルニ拘ラス、有力ナル蒙古

人ト結ムテ「アナンダ」ノ子「ユエル・チムル」ヲ位ニ即ケムト謀リシカ、事覺ハレ首謀者誅セラレ、「ユエルチムル」亦殺サレタリ。

帝、學者ヲ悅ハセ、以テ支那人ノ歡心ヲ得ムト欲シ、孔子及其弟子數名ノ父母ニ新ニ敬禮ヲ表シタリ。又國內ノ良儒ヲ集メタル翰林ニ蒙古ノ歴史及風俗誌ヲ編纂スヘク命シ、一日該團體ニ臨ミ、歴史上ノ一大講演ヲナシシカ、其時、當時ノ誌録ヲ見ムト欲シ、之ヲ取り來ルヘク隨行員ヲ遣ハシタリ。良々久フシテ翰林ノ副院長「リウ・セ・チン」(Liu sse ching 劉思敬)來リ、帝ノ脚下ニ伏シテ曰ク、本院ハ皇帝、王子、大人等ノ所行ヲ善惡何レモ公平明細ニ記載スルヲ以テ任務トシ、其誌録ハ皇帝ノ死後高級ノ史官ニアラスハ見ルコトヲ許サレス。太古以來、自朝ノ誌録ヲ見ルヘク敢テシタル皇帝アルコトナシ、況ムヤ自代ノソレヲ願クハ帝、此久シキ間行ハレタル神聖ナル慣習ヲ傷ケサラムコトヲト、帝屈シ、マダ強キテ求メス、却ツテ彼レカ勇氣ト忠實トヲ賞讃シタリ。

「トブチムル」快樂ニ耽リ國事ヲ宰相ニ委ネ、全クノ尸位ニ過キサリキ。一三三二二年死ス、時ニ齡二十九歳。

「クシヤラ」ノ一子既ニ太子タリシニ拘ラス、「ヤンチムル」ハ皇太后「プタチエリ」(Putei-

chei)ニ先帝ノ子ヲ立テムコトヲ勸ム。蓋シ先帝、痛ク「ヤンチムル」ヲ寵シ、己レノ一子ヲ「ヤンテクス」(Yang tekus 燕帖古思)ト名ツケ、之ヲ教育スヘク彼レニ託シ、其代リニ彼レノ一子「タルガイ」(Targai)ヲ宮廷ニ於テ養育セシメシナリ。然ルニ皇太后ハ飽クマテモ既定ノ太子「イレチエ」(Yelchebe 懿璘質班)即チ「クシヤラ」ノ第二子當時七歳ナルヲ立テムト欲シ、遂ニ之ヲ位ニ即ケ自ラ攝政トナリシカ、新帝病弱、在位僅ニ七箇月ニシテ死ス、睿宗ト諡ス。

是ニ於テ「ヤンチムル」再ヒ「ヤンテクス」ヲ立テムト勉メシカ、皇太后之ヲ非トシテ曰ク「トブチムル」ハ「クシヤラ」ノ子ヲシテ己レノ後ヲ襲カシムヘク「クシヤラ」ニ約束シタルニアラスヤ。且ツ我レ既ニ「クシヤラ」ノ長子「トガンチムル」(Togan timur 安權貼睦爾)ヲ迎ヘテ速ニ大都ニ來ラシムヘク人ヲ廣西ニ遣ハシタリト。

「トガンチムル」當時十三歳ナリキ。是ヨリ先キ「トブチムル」治世ノ始メ、「プタチエリ」カ「クシヤラ」ノ皇后「バブチャ」(Bapucha)ヲ殺スヤ其子(即チ「トガンチムル」)ヲ朝鮮沿海ノ一島ニ流シ何人モ之レニ近ツクヲ禁シタリシカ、一年ノ後、「トガンチムル」カ流サレタルハソカ正當ノ皇位繼紹者ナルカ故ナリトノ風説アリ「トブチムル」曰ク「クシヤラ」ハ蒙古ニ於テ子ヲ有セス、故ニ「トガンチムル」ハ其子ニアラスト。サレト、彼レハ「ト

ガンテムルヲ招キ廣西ニ住セシメタリ。

サテ「トガンテムル」大都ヲ距ル數里ノ所ニ來リシ時「ヤンテムル」諸王子及高官ト共ニ出テ迎ヘシカ「トガン」及從者等ノ應接ノ態度ニ不滿ヲ抱キ、久シク即位セシメス。「トガン」ヤカテ己レノ過ヲ悟リ「ヤンテムル」ノ意ヲ和クル爲メ其娘「ペヤオ」(Peyao)ヲ娶ル。然レトモ事未タ決セスシテ「ヤンテムル」死ス。彼レ「トブテムル」即位以來專横日ニ甚シク、而シテ起チテ一人ノ之ヲ爭フ者ナシ。彼レ「イスンテムル」ノ皇后ヲ取ツテ之レト婚シ又「ジンギス」ノ裔ナル諸王女ヲ妾トシ其數四十名ニ及ヒ、其中或ハ僅ニ三日ニシテ歸ヘシタルモアリキ。彼レノ死ハ全ク荒淫大酒ノ結果ナラスムハアラス。彼レ既ニ死ス。依ツテ皇后速ニ先帝ノ遺志ト稱シテ「クシヤラ」ノ子「トガンテムル」ヲ立ツ、但シ己レノ子「ヤンテクス」ヲシテ繼カシムヘシトノ約ノ下ニ。

新帝亦遊樂ヲ事トシ政ヲ怠ル「ペエン」(Peyen)巴延又ハ伯顔宰相トナリ「サツン」(Sayan)薩敦元帥タリ「サツン」ハ「ヤンテムル」ノ兄ナリシカ、就職後間モナク死シ「ヤンテムル」ノ長子、即チ新皇后「ペヤオ」ノ兄ナル「タンキチ」(Tang Kichi)騰吉斯之レニ代ル。帝「ヤンテムル」ノ一族ノ勢力ヲ思ヒ其歡心ヲ買ハム爲メ「ペヤオ」ニ女トシテノ最高ノ位階ヲ授ク「タンキチ」性猛暴ニシテ嫉妬心強シ。彼レ「ペヤン」カ己レニ詢ルコトナク大事

ヲ決スルヲ見テ怒ヲ發シ「シレキ」ノ子ニシテ「マング」帝ノ孫ナル「ホアン・ホ・テムル」(Ho-an ho Timur)鴻和特穆爾ヲ立テムト謀ル。彼レノ兄弟「タルガイ」(Targai)叔父「タリエンタリ」(Talientali)等之レニ與カレリ。

彼等陰ニ兵ヲ遣ハシテ上都ノ離宮ヲ奪ハシメムト企テシカ、事、同族ノ一王子ノ口ヨリ洩レ「ペエン」ノ知ル所トナル。「ペエン」直チニ「タンキチ」ト「タルガイ」ヲ宮中ニ捕ヘシム。「タンキチ」抵抗ニ勉メシモ遂ニ斬リ殺サル。「タルガイ」ハ己レノ姉妹ナル皇后ノ室ニ逃ル。皇后衣服ヲ以テ彼レヲ隱蔽セシカ、彼レヲ追ヒ來リタル者皇后ニ憚ル所ナク搜索シテ、之ヲ獲、彼女ノ面前ニ於テ斬殺シス。

「ペエン」又帝ニ皇后ヲ殺スヘキ命ヲ受ケ、彼女ノ室ニ入ル。皇后、之ヲ察シ、帝ノ室ニ馳セ入り、涙ヲ流シテ命ヲ赦サムコトヲ請ヒシカ、帝、聽カスシテ曰ク汝ノ叔父ト兄弟等我レニ對シテ反逆ヲ謀リタリ。我レ汝ヲ救フ能ハスト。カクテ彼女ハ或家ニ送ラレ、其處ニテ「ペエン」ノ殺ス所トナレリ。タリエンタリ「劔」ヲ抜イテ防キシモ協ハス。「ホアンホテムル」ノ家ニ逃ケシカ、亦ソコニテ追ヒ來リタル者ニ殺サレ、「ホアンホテムル」ハ自殺シタリ。カクテ「ヤンテムル」ノ一家全滅ニ歸ス。

三日天下ノ皇帝、宮中ノ悲劇、虐殺、内亂、薄弱ハ遂ニ支那人ヲシテ蒙古ノ軛ヨリ脱

スヘク起タシメヌ。カクテ、河南、四川、廣東ニ於テ同時ニ暴徒蜂起セシモ幸ニシテ直チニ鎮定セシカ、是ヨリシテ蒙古ノ朝廷ハ支那人ニ對シテ大ニ警戒ノ念ヲ生シ、一三三六年、令シテ馬及兵器ヲ所持スルヲ禁シ且蒙古語ヲ使用スヘク命シタリ。

宰相「ベエン」今ヤ權勢ノ頂ニ達ス、墜落ノ來ル豈遠カラムヤ。彼レ帝ノ許ヲ受ケスシテ肆ニ「ジンギス」ノ裔ナル一王子ヲ殺シ、二王子ヲ流シタリ。又、彼レ性、貪婪ニシテ殘忍ナリシカハ、帝ト己レノ部下以外ノ凡テノ者ノ怨ムトコロトナレリ。「トガンテムル」ハ「ベエン」ノ部下ノ爲ニ嚴重ニ監守セラレ「ベエン」ノ行爲ニ付テハ何等知ル所ナカリシカ、一三四〇年ニ至リ「ベエン」ノ甥ニシテ監守者ノ一人ナル「トクタガ」(Togtag) 意ヲ決シテ事情ノ真相ヲ帝ニ告ク。帝乃チ陰カニ「ベエン」ヲ除カムト謀リ「ベエン」ノ狩ニ出テタル時、其歸リテ都ニ入ルヲ許サス。南支那ニ流セシカ、彼レ、謫所ニ往ク途中死シタリ。流サレタル者カ途中ニ死スルハ普通ノ事ナリ。兄弟「マチャルタイ」(Machartai) 馬札兒臺代リテ宰相トナル。

同年帝、祖先ノ廟ヨリ「トブテムル」ノ位牌ヲ除キ、其皇后ヲ宮廷ヨリ逐ヒ、又太子「ヤンテクス」ヲ朝鮮ニ流シタリ。此時出テタル勅令ハ、以テ此行爲ノ説明ト見ルコトヲ得ヘシ曰ク「クルク」汗ノ死シタル時、皇后、陰謀ニ加ハリ、我父「クシヤラ」汗ヲ宮廷ヨリ

逐ヒ雲南王トナシテ之ヲ遠ケタリ。「シユヂバラ」(Gegen汗)ノ殺サレタル時、位ハ「クシヤラ」ニ授ケラレシモ、當時父ハ安全ノ爲メ「ゴビ」沙漠ノ彼方ニ在リシヲ以テ其歸ル迄ノ間、歸ラハ必ス讓ルヘシトノ約ノ下ニ「トブテムル」位ニ即キ、同時ニ國璽ヲ來ラムトスル我父ニ送リタリ。我父ハ弟ノ好意ニ報ユヘク、彼レヲ己レノ後繼者ト定メタリ。「トブテムル」亦之レニ報ヒム爲メ、部下ト共ニ往キテ父ヲ迎ヘ、大ニ信敬ノ意ヲ表ハシ而カモ却ツテ、父ヲシテ死ニ至ラシメ、我叔父ハ再ヒ位ニ即キ、我父トノ約ニ違イテ己レノ子ヲ太子トセリ。又「バブチャ」皇后ヲ殺シ我レヲ遠地ニ流シタルノミナラス、我レヲ「クシヤラ」ノ子ニアラスト證スヘク勉メタリ。サレハ天ハ彼レノ生命ヲ奪ヒテ其大罪ヲ罰シタマヘリ。「バタチエリ」ハ己レノ權勢ヲ濫用シテ我レヲ排シ我弟ナル九歳ノ小兒ヲ位ニ即ケシカ、幼帝死スルヤ、諸大人諸王子「クシヤラ」帝ノ子トシテ我レニ屬スル領ヲ我レニ與ヘタリ。我レハ先ツカノ殺戮ト爭論ヲ事トスル奸人輩ヲ拂ヒテ朝廷ヲ清メタリ。天恩感謝ノ情ニ充テル我レハ天ノ棄テタル者ヲ留メ置ク能ハス。須ラク宗廟ヲ整理シ「トブテムル」ノ位牌ヲ之ヨリ除クヘシ「バタチエリ」ノ稱號ト所領ヲ奪ヒテ東安州ニ流スヘシ「ヤンテクス」ヲ朝鮮ニ流シ且ツ此陰謀ニ與ツカリ而モ尙生存セル凡テノ者ニ相當ノ刑ヲ加フヘシ」ト。

カクテ「ヤンテクス」ハ「ユエ・クサル」[Yue Kusar]護送ノ下ニ朝鮮ニ流サレ、途中其殺ス所トナリ、「ブタチヤリ」モ指定ノ地ニ流サレ、同地ニ於テ間モナク死セリ。此嚴酷ナル處分ニ付テハ宰相「マチャルタイ」其不可ヲ唱ヘタルカ、今ヤ彼レ、民ノ罪ヲ己等ニ歸スルアラムヲ恐レテ辭職シ、彼レノ子「トクタガ」[Tuktacha]脱々又ハ托克托「ト」チムル「ブガ」[Timur Baga]帖木兒不花之レニ代レリ。

此頃遼、金、宋諸朝歴代ノ史録完成ス。始メ「クビライ」即位後間モナク遼史及金史ヲ編纂セシメ、既ニシテ結了シ、ヤカテ宋ノ亡フルヤ、宋史ヲ編纂セシメシカ、彼レ又是等諸朝建立ノ由テ來ル所ヲ記シ、之ヲ該諸史ノ中ニ加ヘムト志シ之レカ著手ヲ命シタリ。然ルニ、此業爾後殆ント全ク閑却セラレト「トガ」チムル帝ノ時僅ニ進捗スル所アリシノミ、「トクタガ」之ヲ遺憾トシ國內ノ名儒ヲ選ムテ之レヲ託シ、己レノ監督ノ下ニ遂ニ三代ノ誌録ヲ完成シタリ。尙彼等ノ作りタルモノノ中ニ曆、天文研究法、偉人傳、古今著作表、アラユル事項ニ關スル圖書集、宋史中ニアリ、外國ニ關スル統計類、屬國ニ關スル詳密ナル記述アリ。

三年ノ後「トクタガ」政治生活ニ飽キ致仕ス。帝、何人ヲ後任トスヘキカヲ問フ。彼レ、「ジンギス」ノ友人中ノ第一者ニシテ其四名將ノ一ナル「ボオルチユ」四世ノ孫「アルツ」

(Alu 阿魯圖)ヲ薦ム。「アルツ」在職中「マチャルタイ」ト「トクタガ」ヲ流ス。一三四七年「ピエ」ルキエ・「ブガ」(Pierkie Baga)別兒怯不花「アルツ」ニ代ル。彼レハカノ「クルク」汗ノ命ニヨリ殺サレタル宰相「アグタイ」ノ子ナリシカ、在職僅ニ數月ニシテ「ツルチ」[Turchi]朶兒只之レニ代ル。「ツルチ」太平ヲ召シテ己レノ同僚トス。太平「トクタガ」ヲ呼還ス。之ニ先チ其父「マチャルタイ」ハ謫所ニ死ス。サテ「トクタガ」還ルヤ忽チ帝ニ寵ヲ得、彼レ之レニヨリテ、己レノ嫉メル太平ヲ遠謫スルヲ得タリ。

此間ニ、南方ニ於テ、騷亂日々ニ蔓延シツツアリキ、一三四年、二人ノ平民湖廣ニ於テ兵ヲ擧ケテ多クノ城ヲ取り、又山東エ於テハ到ル處不平ノ聲ニ充チ、同時ニ他ノ地方ニ於テ群盜横行シ、海賊ノ首魁方國珍ハ浙江及江南ノ沿岸ヲ劫掠シ、尙南方ノ諸河ヲ溯リテ諸市ヲ掠奪シ、特ニ首都ニ輸入セムトスル米穀其他諸種ノ糧食ヲ載セタル船ヲ犯シタリ。然ルニ蒙古ノ朝廷ハ是等騷亂ノ端緒ニ對シテ顧慮セザリシヲ以テ、騷亂爲メニ急ニ蔓延スルニ至レリ。而シテ是等騷亂ノ發頭者ハ實ニ一三五一年政府カ企テタル大工事ヲ利用シタルモノトス。

是ヨリ先キ黄河屢々洪水ヲ起シ、損害極メテ多シ。ヨツテ、同年政府ハ同河ノ一部ニ新河床ヲ開クヘク、長サ八十里ノ堤防ヲ築カムトシ、河ノ兩岸並ニ其附近ノ住民

又ハ兵士ヲ役シテ事ニ當ラシメタリ。叛徒是等勞働者中ノ不平漢及新工事ノ爲ニ土地ヲ奪ハレタル結果、他所ニ於テ土地ヲ獲ムト欲シタル者等ヲ招キテ己レノ仲間ニ引キ入レシカ、更ニ此工事ノ爲メニ新稅ヲ課セラレ、爲メニ不平ノ聲愈々大ナルヲ致シヌ。

韓山童ト名クル身分不明ノ者アリ。彼レ人心ノ動搖ヲ見テ今ヤ佛、支那人ヲ蒙禍ヨリ救フヘク現ハレタリト自ラ唱へ、河南、江南、山東諸省ニ於テ亂ヲ起セシカ、其領袖等、此説力足ラスト考へ更ニ韓山童ハ宋ノ徽宗八世ノ孫ナリト附加シ、黒牛ト白馬ヲ屠リテ盟ヒ、赤帽(紅巾)ヲ戴キテ其徒ノ徽章トナシタリ。彼等、ヤカテ蒙兵ト戰ヒ敗レ、韓山童擒ニセラレ殺サレシカ、其妻ト子韓林兒逃ケ、尙亂ヲ續ケタリ。

彼等、第一歩ニ於テ失敗セシモ、ヤカテ、其領袖ノ一、劉福通江南ノ諸城ヲ取り、大兵ヲ率キテ河南ニ到リ、他ノ領袖等江南及湖廣ノ不平漢ヲ集メテ之レニ赤帽ヲ授ケ、又徐壽輝ハ湖廣ノ蘄州ニ於テ自ラ立ツテ帝トナリ、其朝ヲ天完朝ト稱シタリ。

蒙兵敵スル能ハス、僅ニ戰ヒタル後、退却シ楊子江地方全部ヲ放棄ス。時ニ彗星現ハル。叛徒等、是レトガンテムルノ間モナク滅亡スルヲ告グルモノナリト稱ス。是ニ於テ蒙古政府、人心收攬ノ爲メ、南方ノ儒者ニモ凡テノ官職ニ就クコトヲ許シタリ、蓋

シ、此時迄彼等ハ只文學及商業ニノミ關係スルヲ得、將校トナル如キ事ハ全ク不能ナリシナリ。

蒙古政府マタ、宰相トクタグノ兄弟、エツセン・テムル(Yessen Timur)也先帖木兒ヲ將トシ一軍ヲ河南ニ派シ且ツ、宋帝ノ後裔、イン・クエ(Yng Kwo)漢字不明ヲ遠地ニ流シ、以テ何人トモ消息スル能ハサラシム。是レ、當時、叛徒ノ巨魁多クハ、宋ノ社稷恢復ノ爲メト稱シ彼レヲ奉シテ己レノ野心ヲ遂ケムトシタレハナリ。

サテ徐壽輝荐リニ克チシカ、尙モ人ヲ引付クル爲メ、其取りタル諸城ニ於テ自由ニ掠奪スルヲ許シタリ。彼レカクテ、漢陽ヲ奪ヒ、武昌ヲ拔キ九江ヲ陷レ又、フアンチキン(Fan chi King)漢字不明ト戰ツテ之ヲ破リ、嘗テ宋ノ首都ナリシ杭州ヲ取りシカ、蒙將トン・ブ・シャオ(Tong pu Siao)董搏霄ヲ楊子江ヲ渡リ進ムテ杭州ヲ圍ミ、奮闘遂ニ之ヲ回復ス。湖南ノ亂ヲ平クヘク遣ハサレタルエツセン・テムルハ、リフトン(Li Fong)劉福通ト戰ヒ敗レテ開封府ニ退却シ、其無能ヲ咎メラレシカ、間モナク叛徒愈々猖獗ヲ致セシカハ、帝遂ニ彼レヲ罷メ、其兄弟トクタグヲ以テ之ニ代フトクタグハ、河南ノ兵ヲ率キテ、叛徒ヲ北許州附近ニ討ツテ之ヲ破リシカ、楊子江地方ニ於ケル凡テノ官軍ヲ指揮セル星吉、新ニ起リタル叛徒トノ戰ニ敗死シタリ。

海賊ノ巨魁方國珍勢益張り依然トシテ北方沿海ノ船舶ヲ掠奪シ、南支那ヨリ大都ヘノ輸入物品及貢入物ヲ取ルコトヲ止メサルノミナラス、將軍タイブガ(Tai Bu)太不花ヲ欺キ殺シシカハ、政府ハ「チエリ・チムル」(Tie li timur 帖里帖木兒?)ヲ遣ハシテ和ヲ議セシム。珍曰ク、若シ我レト我二人ノ兄弟トヲ第五等ノ官吏ニ任用セハ我レハ軍隊ヲ解散シテ降服セムト「チエリ・チムル」悦ンテ之ヲ諾シ、乃チ三人ニ浙江省ノ徽州、廣徳、信州ノ三地ヲ授ケムト約シタリ。然ルニ引渡シノ期日ニ至リテ彼レ理由ヲ告クルコトナク、之ヲ受クルコトヲ拒ミ、船ニ帆ヲ揚ケテ兵ト共ニ去リヌ。

一三五四、張士誠、江南ニ兵ヲ起シ「タチ・チムル」(Tachi Timur 達識帖睦迺)命ヲ受ケテ往キテ之ヲ討チ、却ツテ敗レシカ、宰相トクタガ「士誠ヲ襲ヒテ之ヲ破リ、彼レノ爲メニ取ラレタル諸城ヲ回復スルヲ得タリ。然ルニ彼レ、カク外ニ於テ大ニ成效シツツアリシ間ニ、首都ニ於テハ同僚彼レヲ陥レムト謀リツツアリシナリ。始メ、「ハマ」(Hama 哈麻)又ハ「哈瑪爾」及「スエ・スエ」(Sue Sue 蘇々)又ハ「雪々」トイフ兄弟アリ「カンカリ」(Kancari)土耳其人ニシテ、奸佞邪曲、加フルニ放蕩ナリシカ「トクタガ」ハ「ハマ」ヲ採用シテ官ニ就ケ、ヤカテ大臣トナセシニ、彼レ皇后ノ寵ヲ受ケ、其勢力日々益々大ナルヲ致ス。皇后ハ朝鮮ノ王女ニシテ奇氏ナリ。帝ニ寵アリ、其子ハ太子ナリキ、尋イテ「ハマ」帝ノ遊

樂ニ耽リツツアルニ乗シ、年少ナル放蕩漢ヲ以テ宮廷ヲ滿タシ、且ツ奇怪ノ迷信ヲ抱ケル西藏ノ「ラマ」僧ヲ入レテ、アラユル種類ノ妖術ヲ行ハシメ、遂ニ御史等ヲ教唆シテ「トクタガ」ハ官金ヲ私用セリト訴ヘシメシカハ「トクタガ」ハ爵位ヲ剝カレ淮南ニ流サレ「ユエ・ユエ」(Yue Yue 雪々)ノ誤ト「ユエ・クツチャル」(Yue Kutchar 月闕察兒)ノ二人其職ヲ襲ク。

此時、徐壽輝、湖廣ノ大都武昌ヲ取リシカ、更ニ沔陽ヲ取ラムト欲シ、部下ノ良將倪文俊ヲシテ之ヲ攻メシム。同地方ヲ支配セル威順王己レノ子報恩奴ヲ遣ハシテ之ヲ防カシム。然ルニ報恩奴ノ船重カリシ爲メ漢江ノ淺瀬ニ乗リ上ケ動カス、叛徒等火箭ヲ以テ之ヲ燒ク。報恩奴其兵若干ト共ニ討死シ、沔陽ハ叛徒ノ手ニ歸シタリ。

次年(一三六六年)倪文俊、襄陽ヲ取リ又蒙將「ツル・チバン」(Tur chu pan 朶兒只班)ヲ破リテ「チヨンリン」(Tchong ling 中興?)ヲ獲タリ。

南方ニ於ケル是等ノ官軍ノ失敗ハ大都又ハ其他ノ地ニ於テ輕視サレシモ河南ノ叛徒黃河ノ北方ニ侵入スルヤ、大都ノ朝廷震駭シ、急ニ兵ヲ河南、陝西及山東ニ送ル。湖南紅巾黨ノ巨魁劉福通、衆ヲ得ムカ爲メ韓山童ノ子韓林兒ヲ宋帝ノ裔ト稱シテ之ヲ明王ト名ツケ朝ヲ湖南ノ「ポチウ」(Pochiu 亳州?)ニ建ツ。

元ノ政府ハ、宋ナル名ノ衆ニ悅ハルルアラムヲ恐レ、タチエバハツル(Tache Bahadur) 蒼失八都魯ヲシテ兵ヲ率キテ往イテ明王ヲ討タシム。彼レ劉福通ト戦ヒ敗レシカ、
「リウフラブガ」(Liu Huiya Baga) 劉哈刺不花ヤカテ、援軍ニ將トシテ到リ劉福通ヲ破ル。是
戦功ニヨリ、彼レ總大將ニ任セラレ、直チニ進ムテ「ボチウ」ヲ攻メ再ヒ劉福通ヲ破ル。
彼レ明王ヲ携ヘテ安豊ニ走ル。

サテモ「ハマ」ハ「トクタガ」ヲ斥ケタル後、自ラ宰相トナリ、兄弟「スエスエ」ハ御史ノ長
ニ任セラレ、今ヤ一切ノ權勢兄弟二人ノ掌裡ニ歸シ、「ハマ」ノ恐ルル所ハ只「トクタガ」
ノ歸ルコトアラムコト是レノミ。因ツテ、彼レ「トクタガ」ヲ其謫所ニ殺サシメシカ、國
情日ニ非ニシテ皇帝亦墮落シ改悛ノ望ミナキヲ見「ココ」ニ至ラシメタル罪ハ盡ク
「ハマ」ニアリトイフモ不可ナキニ拘ラス、帝ヲ廢シテ太子ヲシテ即位セシメムト謀
リシニ、事露ハレ、遠流ノ刑ニ處セラレ、一三五年ニ至リテ、更ニ絞殺セラレタリ。
是ヨリ先キ一三五年、元ヲ滅ホシテ明朝ヲ建ツルノ使命ヲ帶ヘル者現ハレタ
リ。朱元璋是ナリ。彼レハ、元、僧侶ナリシカ、還俗シテ、叛徒ノ首領郭子興ニ屬シ、大ニソ
ノ用ユル所トナリ、威望日ニ高ク、來リ附ク者甚多シ。彼レヤカテ楊子江ニ向ヒ、太平
ニ到ルヤ、衆目シテ教主トナシ來リ迎フ。既ニシテ南京、揚州、鎮江ヲ拔キ、江口ノ常州

ヲ圍ム。當時、常州ハ張士誠ノ兵ノ守レル所ナリシカ、士誠ハ在ラス。士誠、先キニ一旦
「トクタガ」ニ破ラレシモ、蒙兵ノ怠慢ノ爲メニ、漸ク勢ヲ回復シ、多クノ城ヲ取ルヲ得、
勢漸ク振フ。是ニ於テ士誠、兄弟張子徳ヲ遣ハシテ常州ヲ救ハシメシカ、彼レ敗レテ
擒トナレリ。

張士誠乃チ書ヲ朱元璋ニ送リテ、願クハ圍ヲ解キ且ツ子徳ヲ赦サレタシ、我レ汝
ノ臣トナリ、年々、穀物及金銀ヲ貢スヘシトイフ。元璋、此言ノ僞ナルヲ看破シ、子徳ヲ
放タス、且ツ城ヲ陷レタリ。

北方ニ於テハ宋ノ僞帝明王ノ與黨、陝西及河南ヲ蹂躪セシカ、陝西ニ於テ蒙將「チ
ヤガンテムル」(察罕帖木兒)ノ破ル所トナレリ。然ルニ明王ノ宰相劉福通ハ既ニ湖南
ノ大部分ヲ取リシカハ、更ニ其首都開封府ヲ取リ、其地ニ於テ明王ノ朝廷ヲ建テム
ト欲ス。是ヨリ先キ彼レノ遣ハシタル二隊ノ兵、山東ニ於テ劫掠ヲ縱ニシ、其一隊ノ
長白不信「チンロン」(Tsin Long) 漢字不明ヲ鞏昌ニ擒ニシ、鳳翔ヲ圍ム「チヤガンテムル」、
之ヲ救フヘク往キテ急ニ白不信ヲ襲ヒ、其輜重ヲ奪フ「ベフシン」(四川ニ逃ク、山東ニ
侵入シタル叛徒ハ多クノ城ヲ取リテ「タルマチエリ」(Talima che) 答里麻失里ヲ破リ、
首都濟南ヲ圍ム。

「トントアンシアオ」(Tong toan siao 薰搏霄?) 蒙兵一隊ヲ率キテ河南ヨリ進ミ、叛徒ト
 濟南城ノ附近ニ戰ヒテ之ヲ破リシカ、ヤカテ同地ヲ去ルヤ、忽チ宋ノ僞帝ノ將毛貴
 來リテ同城ヲ取り、尋テ「トントアンシアオ」ヲ追撃シテ之ヲ殺シ、一三五年、嘉興城
 ヲ陷レ、大都ニ迫ル。元帝諸臣ヲ會シテ議ス。帝速ニ大都ヲ退クヘシトイフ者アリシ
 カ、宰相太平之ヲ不可トシ、名將「リウカラ・プガ」(Liu Kara Buga 劉哈刺不花?) ヲシテ毛奇
 ヲ討タシム。毛奇敗レテ、濟南ニ退却ス。サテモ劉福通ハソノ兵ノ一隊カカク大都ヲ
 脅カシツツアリシ間ニ自ラ開封府ヲ攻メテ其城將ヲ走ラシ、金朝ノ最後ノ都ナル
 同市ニ於テ皇帝ノ朝ヲ建ツ。尋テ彼レ關先生ト破頭潘トニ二隊ノ兵ヲ授ケテ黃河
 ノ北ニ遣ハシタリ。二將山西ノ大部分ヲ蹂躪ス。特ニ關先生ハ遙ニ北方遼東ニ進ミ、
 首都遼陽ヲ劫掠シ朝鮮ノ境ニ達シ、更ニ引還ヘシテ長驅上都ヲ攻メテ之ヲ取り、其
 兵「クビライ」ノ壯麗ナル宮殿ヲ燒キタリ。此間ニ南方ニ於テ徐壽輝ハ湖廣ノ大部分
 ト江西ノ一部ヲ取り、朱元璋ハ江南ニ於テ勢張り既ニ浙江ノ東部ヲ略ス。海賊方國
 珍、西ハ張士誠ニ壓セラレ、東ハ既ニ福建ヲ取りタル陳友諒ニ脅カサレ、來ツテ元璋
 ニ降ヲ請ヒ、南浙江ノ興元、温州及臺州ノ地ヲ與ヘムト約シ、己レノ子方關ヲ質トシ
 テ遣ハセリ。元璋之ヲ諾シ、上記ノ諸地ヲ受ケタル後南京ニ歸リ、新ニ獲タル諸地ヲ

統治スヘク有力ナル議會ヲ組織ス。

元璋ノ勢威日ニ盛ナルト同時ニ、他ノ二派ハ互ニ軋轢シ勢力衰ヘタリ。即チ宋將
 毛奇ハ同僚趙君用ニ殺サレシカハ徐壽輝之ヲ復讐スヘク遼陽ヲ發シ益都ニ於テ
 「チャオキウンヨン」ヲ捕ヘテ之ヲ殺シタルカ、徐壽輝ノ與黨ノ間ニモ確執生シ、天完
 朝ノ創立者タル陳友諒、江西ノ東部ノ信州ヲ圍ミ、有名ナル激戰(一三五八年)アリ。城
 將「ジンギス」ノ裔「タチンヌ」(Tachin nu 漢字不明)「ウイグル」ノ「イデクト」ノ裔「ベエンブ
 ガ」(Beyen Buga 伯顏不花)ノ二人之ヲ固守セシモ討死シ、加フルニ城内食糧乏シク、兵
 我友ノ屍ヲ喰フニ至ル。陳友諒ノ兵、地下ヲ穿テテ道ヲ作り遂ニ城ヲ陷ル。此時徐壽
 輝都ヲ漢陽ヨリ南昌府ニ遷サムト欲ス。カクテハ勢力削減セラレヘシトテ反對ス
 ル者アリシカ、遂ニ出テテ途ヲ九江ニ取ル。陳友諒伴ツテ之ヲ迎ヘ、彼レカ九江ニ入
 ルヤ否ヤ速ニ城門ヲ閉ツ。伏兵起ツテ其從者ヲ斬ル。陳ハ徐ノ生命ト稱號ヲ奪ハサ
 リシモ、之ヲ幽閉シ、自ラ漢王ト稱ス。稍後、彼レ徐ト共ニ往キテ太平ヲ陷ルルヤ、鐵槌
 ヲ以テ之ヲ船中ニ打殺シヌ。

是ニ於テ陳、自ラ皇帝ト稱シ國ヲ漢ト名ケ、九江ニ歸レリ。

蒙將「チャンガチムル」宋黨ノ分裂ヲ見、南京ヲ攻メテ劉福通及其皇帝ヲ捕ヘムト

欲シ兵ヲ三軍ニ分チ路ヲ異ニシテ同時ニ進ム。南京驚愕ス。彼レ糧道ヲ絶テ食既ニ盡キタルヲ見夜ニ乘シテ一齊ニ攻撃シ城ヲ取ル。福通皇帝ヲ携ヘテ安封(Ugan-fu)ニ走ル。

一三五三年トガンテムル「アイユチエリタラ」(Aiyuchelitala)阿裕錫哩達喇ヲ立テ太子トシ大赦ヲ行フ。七年ノ後太子其母乃チ皇后奇氏ト心ヲ合セ宰相太平ヲシテ帝ニ説キテ位ヲ讓ラシメムトス。太平聽カス因ツテ二人太平ヲ滅ホサムト欲シ先ツ宰相ノ與黨若干ヲ毒殺ス。太平己レノ身ノ危キヲ見テ職ヲ辭ス。是ニ於テ宦官「バプホア」(Pa Pu Hwa)朴不花ト「チヨセキエン」(Chosetien) 憐思監又ハ綽斯戡權ヲ專ニス。此二人ハ愚弱且放蕩ナル皇帝ヲ挾ミ其周圍ノ一切ノ事情ニ無知ナルニ乘シテ只私利ヲ是レ謀ル無恥漢タルナリ。

而カモ此際兩個ノ蒙將ノ間ニ爭端アリキ「チヤガンテムル」山西ニ於テ晋冀ヲ奪還スルヤ大同府ノ總督「ボロテムル」(Polo timur) 孛羅帖木兒同地ハ我所領ナリト主張シ之ヲ取ルヘク兵ヲ以テ進ミシニ「チヤガン」之ヲ拒ム。帝乃チ詔シテ境界ヲ定メ各其領地ニ歸ラシム。然ルニ「チヤガン」令ヲ聽クヤ帝忽チ又冀寧ヲ「ボロ」ニ讓ルヘシト命ス「チヤガン」冀寧ハ開封府防禦ノ爲メニ必要ノ地ナリト答ヘ兵ヲ集メテ往キテ

「ボロ」ヲ攻メムトス。帝マダ令ヲ下シテ進軍ヲ禁セシカハ二將已ムヲ得ス不平ナカラニ兵ヲ收メタリ。

同年(一三六〇年)北方蒙古ニ爭亂起リ其形勢由々敷見エヌ。帝屢々同族ノ諸王子ニ令ヲ下シ兵ヲ以テ我レヲ援ケ我國ヲ守ラムコトヲ以テス。然ルニ「オゴタイ」七世ノ孫「アリホエテムル」(Ali hwei timur) 阿魯輝帖木兒却ツテ帝位ヲ覬覦シ帝ヲ援クト稱シテ兵ヲ率キテ進ミ長城ヲ距ル數日程ノ處ニ到ルヤ「皇帝」トガンテムル「無能ニシテ其社稷ヲ保持スル能ハス既ニ其過半ヲ失ヘリ」ト宣言シ帝ニ殘リノ地ヲ我レニ與ヘヨト告ク。帝「ツキエンテムル」(Tukien timur) 禿堅帖木兒ヲ遣ハシテ之ヲ討タシメシモ「ツキエンテムル」敗レテ上都ニ退却セシカハ元ノ朝廷震駭シ急ニ兵ヲ送リシカ。此時「アリホエテムル」ノ部下叛シテ彼レヲ捕ヘテ「ツキエンテムル」ニ送リ「ツキエンテムル」之ヲ殺シヌ。

「ヤカテ」チヤガンテムル「河南ヨリ歸リ兵ヲ諸大城ニ置キ往キテ上都ヲ回復セムトス。彼レ同地ニ到ルヤ賊將田豐及王士誠ノ二人降ル。彼レ乃チ兵ヲ數軍ニ別チテ各方面ニ向ハシメ自ラ濟南ニ往キテ之ヲ圍ミ三箇月ノ後之ヲ陷ル。尋テ益都ヲ攻ム。實ニ一三六二年ナリ。同都ハ叛徒ノ手中ニ殘レル唯一ノ城ナリ。田王ノ二將狡獪

ナル蒙將ニ降リテ之ヲ援ケタルヲ悔ヒ、之ヲ殺サムコトヲ謀ル。乃チ田「チヤガン」ニ兵ヲ閱セムコトヲ請フ。良將トシテ田ヲ信任セル彼レハ僅ニ十二名ノ從者ト共ニ到リ、陣幕ニ入ルヤ否ヤ、王士誠ノ爲メニ刺殺サル。二人乃チ急ニ兵ヲ率キテ城將トノ約ニ從ヒ益都ニ入ル。チヤガンチムル「ノ養子」ククチムル「Kuku-timur」擴廓帖木兒又ハ庫庫特穆爾、父ノ官爵ヲ繼キ、帝ノ命ヲ奉シテ、激シク益都ヲ攻メシカ、抵抗亦激シ。彼レ自ラ地ニ穴ヲ穿テ、之ヲ通リテ、遂ニ城ヲ取ルヲ得、賊ノ元凶ヲ擒ニシテ之ヲ帝ニ送り、田ト王ノ二人ヲ縛シテ「チヤガンチムル」ノ棺ノ傍ニ立タシメ、其心臓ヲ取リ出シ、以テ父ノ靈ヲ祭り、尙二人ニ從ヒテ城ニ來リタル者ハ一人モ殘サス斬リ殺シヌ。

此時、新ナル一皇帝四川ニ現ハレタリ。彼レハ名ヲ明玉珍トイヒ、元將トシテ徐壽輝ニ仕ヘ同地ヲ略スヘク遣ハサレシ者ナルカ、徐ノ殺サレタルヲ聞クヤ、同地ノ都ヲ取リテ自ラ帝位ニ即キ國號ヲ夏ト稱ス。

此頃、未來ノ支那皇帝朱元璋ト徐壽輝ヲ殺シテ自ラ皇帝ト稱セル陳友諒トノ間ニ戰爭起リ、陳、太平ヲ取り南京ニ向フ。朱、之ヲ迎フヘク進ミ、速ニ南京ヲ取り、陳ヲ九江ノ附近ニ破ル。陳、武昌ニ逃ク。朱、九江ヲ取り、尋テ南昌府ヲ取り、江西ノ諸城皆降ル。

陳、南昌ヲ奪還セムト欲シ、多數ノ船艦ヲ以テ同城ヲ圍ミ、朱カ援兵ヲ率キテ來リ救ハサル前ニ之ヲ陷レムト猛烈ニ壓迫セシカ、守將等固守、遂ニ急ヲ朱ニ告クルヲ得タリ。朱乃チ大兵ヲ船ニ載セテ南京ヲ出發シ、敵ノ退路ヲ絶ツヘク、其船ヲ湖口ノ附近鄱陽湖カ溝渠ニヨリテ江西ト合スルノ邊ニ列ス。包圍既ニ八十五日ニ及ムテ未タ南昌ヲ拔ク能ハサル陳、之ヲ見テ急ニ圍ヲ解キ、來リテ朱ノ艦隊ト戰フ。激戰三日、陳、船ノ多クヲ失ヒ、己レ亦矢ニ中ツテ死ス。其長子ニシテ太子タル陳善兒執ヘラレ諸將降ル者多シ。第二子陳理ハ武昌ニ逃ケ、自ラ立チテ皇帝ト宣セシカ、マタ、朱ノ軍ニ破ラレ無條件ニ降服シ、ヤカテ湖廣ノ地盡ク平ク。惟フニ、朱カカク容易ニ鎮定スルヲ得シハ、蓋シ其性ノ寛大ナルト、其兵ノヨク訓練セラレタルトニ因ラスムハアラス。

是ヨリ先キ、朱元璋、張士誠ト呂珍、宋帝ヲ安豐ニ討ツテ之ヲ取り、守將劉福通ヲ殺シタルヲ聞キ、往キテ之ヲ攻メ呂珍ヲ走ラシ、其後、兵ノ指揮ヲ將軍徐達ニ委ネ、一三六六年、彼レヲシテ「ヒウ」(Hui)湖(州)ヲ圍マシメシカ、安豐ハ朱ノ去リタル後、元軍ノ回復スル所トナリス。

然ルニ蒙人間ノ軋轢尙、已マサルノミナラス、却ツテ愈々重大ナルヲ致セリ。此人

ニシテアラハ或ハ元ノ勢力ヲ恢復シタルヘシト思ハルル「チヤガンテムル」殺サレタル後、其敵「ボロテムル」晋冀ヲ獲ムト欲シ、屢々詔ノ下リタルコトアルニ拘ラス、之ヲ取ルヘク兵ヲ送リシカ「チヤガン」ノ子「ククテムル」ノ爲ニ破ラレ、「ボロ」ハ、同地獲得ノ念ヲ放棄セシモ、他ノ事件ノ起ルアリテ、爲メニ彼レハ帝ニ對シテ戰備ヲナスニ至レリ。元來、帝ノ暗弱ナルコトカ、軋轢ヲ助長シタル上ニ、放縱ニシテ野心アル太子、自ラ進ムテ軋轢ノ渦中ニ投スルアリ。ヨツテ、宰相「チヨセキエン」太子ニ説イテ曰ク、某々ノ多クノ錚々タル輩既ニ叛ヲ謀ラムトス、須ラク之ヲ滅ササルヘカラスト。太子乃チソノ人々ヲ帝ニ訴ヘ、遂ニソノ二人誅セラルルニ至レリ。

「チヨセキエン」ト「バブホア」陰ニ謀リテ、カク故ナク二人ヲ殺スコトヲ得タリシカ、二人ノ友ナル「ツキエンテムル」ノ己等ニ復讐スルアラムヲ虞レ、先ヲ制シテ「ツキエン」ヲ滅サムト欲シ、其罪ヲ鳴ラシテ之ヲ訴フ。「ボロテムル」之レカ辯護ノ勞ヲ取リシカ、太子之ヲ怒リ、「ボロ」ヲ以テ「ツキエン」ノ同謀者ナリトシ、其官爵ヲ奪ヒシニ、「ボロ」命令ヲ拒ミシカハ、「ククテムル」ヲ遣ハシテ「ボロ」ヲ討タシム。カノ命令ハ帝ノ與ツカリ知ラサル所ナルヲ悟レル「ボロ」ハ「ツキエン」ヲ遣ハシ、伴リテ首都ヲ討ツマネヲナシ、居庸關ヲ占領セシム。蓋シ「ボロ」等ハ帝ヲシテ帝ヲ挾メル者ヲ放逐セシムコトヲ

願ヒシモノトス。サテ、該城ノ最近ノ城ヲ守リ居リタル「エス」(Yesu)也速又ハ「伊蘇」(Tsu)キエンヲ撃チシモ大敗シタリシカハ、首都ニアリタル太子恐レテ抱キ北方ニ逃ク。「ツキエン」進ムテ清河ニ至リ駐シ、帝ノ裁決ヲ仰クヘク書ヲ奉ル。曰ク、我レハ「ボロ」テムルニ遣ハサレタル者ナリ。「ボロ」ハ未タ嘗テ帝ニ對スル義務ヲ怠リタルコト毫モ之レアラス。彼レハ君側ヲ清メムト欲スルノミ。請フ叛逆人「チヨセキエン」ト「バブホア」トヲ引渡サレムコトヲ。然ラハ我等直ニ退却セムト。朝廷議論沸騰シ、「ツキエン」ニ抗議ヲ送リシモ、彼レ頑トシテ聽カス退カサリシカハ、遂ニ二人ヲ「ツキエン」ニ賜ヒ且ツ「ボロ」ノ官職ヲ復シタリ。

支那ニ於ケル蒙古ノ勢力既ニ失墜シ、内亂特ニ山東ニ於テ激烈ナリ。太子亦叛ク。帝因テ之ヲ大都ニ招ク。太子命ニ從ヒタリ、但シ、コハ依ツテ以テ兵ヲ集メ「ククテムル」ヲシテ、大同府ニ陣セル「ボロ」ヲ討タシム。爲メナリシナリ。「ボロ」乃チ兵若干ヲ留メテ同府ヲ守ラシメ、自ラ大軍ヲ率キテ大都ニ向フ。太子清河ニ進ミシカ、「ボロ」ノ大軍ヲ望見スルヤソノ兵、恐レテ大都ニ逃ケ、更ニ都ノ西門ヨリ出テテ、當時山西ノ首都太原府附近ニ陣セル「ククテムル」ニ合スヘク走り、太子亦之レニ從ヒタリ。彼等去リタル時、「ボロ」大都ニ入り、諸將ト共ニ皇居ニ到リ、帝ノ脚下ニ伏シ、已ムナクカカル

舉動ニ出テシ旨ヲ告ケテ、帝ノ宥ヲ請フ。

帝「ボロチムル」ヲ大元帥兼宰相トナス。一三六四年「ボロ」帝ノ寵臣ニシテ放蕩ナル「トロチムル」(Tolo tinnur 秃魯)ヲ誅シ且ツ多數ノ宦官及ラマ「僧」ノ全部竝ニ其他宮廷ノ害蟲ヲ驅除ス。又帝ニ請ヒテ屢々使ヲ遣ハシテ太子ヲ招キシモ太子之ヲ肯ンセサルノミカ却ツテ「ボロ」ヲ攻メムト決心シタリ。

「ボロ」太子ノ攻メ來ラムトスルヲ聞キ、皇后奇氏ヲ捕ヘ、迫リテ手ツカラ太子召還ノ命令ヲ書シテ之ヲ送ラシメ、更ニ太子ノ與黨ヲ討ツヘク「ツキエン」ヲ上都ニ遣ハシ、將軍「エス」ヲシテ「ククチムル」及ソレト共ナル太子ヲ攻メシム「エス」往キテ大都ヲ距ルコト南方七里ニ到ルヤ、部下ノ將士等「ボロ」ヲ好マス、相議シテ爾來彼レニ服從セサルヘキヲ決ス。ヨツテ「エス」轉シテ永平ニ往キ、同地ヨリ「ククチムル」ト蒙古ニアル諸王子トニ彼等ノ決議ヲ告ク。

「ボロチムル」此叛ヲ怒リ、良將「ヤオベエン」ブガ「Yao pe yen Buga 姚巴延」ヲ遣ハシ「エス」ヲ討タシム「エス」襲ヒテ、大ニ其軍ヲ破リ、「ブガ」ヲ捕ヘテ之ヲ殺ス。因テ「ボロチムル」百ラ兵ヲ率キテ出テシカ、三日三夜暴風打續キテ進ム能ハス、空シク都ニ引返シヌ。彼レ快々トシテ樂マス、酒ニ耽リテ悶ヲ遣リシ結果、性殘忍粗暴トナリ、自ラ幾度モ人

ヲ殺シ、遂ニ衆ノ厭フ所トナレリ。

是ニ於テ帝、威順王ノ子華善ニ「ボロ」ト其與黨ヲ亡ホスヘキ密旨ヲ授ク。

「ボロチムル」太子ノ與黨敗レテ上都ノ陷リタルヲ聞キ馳セテ之ヲ帝ニ告クヘク到リシニ、ソノ宮殿ニ入ルヤ、華善ノ部下劔ヲ以テ斬ツテ腦ニ中テ之ヲ殺ス。此報ツキエン「ノ軍ニ傳ハリ、兵士叛キ去リ、ヤカテ「ツキエン」捕ヘラレテ殺サル。帝「ボロ」ノ首ヲ冀寧ニアル太子ニ送り、速ニ歸ラムコトヲ命ス。太子「ククチムル」ト共ニ來リ「ククチムル」ヤカテ大元帥兼宰相ニ拜セラル。太子「ククチムル」ニ汝、帝ニ位ヲ己レニ讓ラシムヘク説ケヨト命セシニ、彼レ應セサリシカハ、太子怒ル。帝ハ讓位ヲ好マサリシモ、太子ヲ己レノ補佐トナシ、己レト殆ント同一ノ權力ヲ之レニ授ク「ククチムル」之ヲ止メムトセシモ能ハス、却ツテ官爵ヲ奪ハレシカハ、山西ニ退キ、或城ニ留レリ。

サテモ、元ノ朝廷内訌ヲ生シ、事、日ニ非ナル間ニ、朱元璋ハ著々トシテ其國ヲ擴張シツツアリキ。彼レ南京ニ居リ、古儒ノ教ヘタル道ニ從ヒテ正義ト秩序ニ基ツキ政ヲ行フニ努メタリ。同時ニ、彼レノ將軍徐達ト常遇春ハ尙浙江ト江南ノ一部ヲ占領セル張士誠ヲ攻メ、一三六六年、浙江ノ大都「ヒウチウ」(湖州? Huchiu)ト同省ノ首都杭州トヲ取り、次年皂林ニ於テ士誠ヲ擒ニシ、直チニ之ヲ南京ニ送ル。朱、張ニ、如何ナル場

合ニモ市外ニ出テサルヘキヲ誓ハシメテ之ヲ解放セシカ張ハ直チニ自ラ縊レテ死シヌ。

是ヨリ先キカノ自ラ僭シテ夏ノ皇帝ト稱シタル明玉珍ハ一三六六年ニ於テ死シ其子明昇年僅ニ十年ナルカ繼イテ立チ其母政ヲ攝ス又宋ノ裔ト稱シタル韓林兒モ同年與黨ト共ニ去ツテ往ク所ヲ知ラス。

カノ言ヲ食ムヲ憚ラサル海賊方國珍モ遂ニ降服セリ是ヨリ先キ朱元璋彼レニ入貢ヲ命セシニ彼レ之ヲ拒ミタルノミナラス却ツテ南方ニ於テハ「ククナムル」ト結ヒ北方ニ於テハ當時福建ノ一部ヲ占領セル陳友定ト通シ以テ朱ヲ攻撃シタリ元璋乃チ將軍湯和ヲ遣ハシテ温州臺州及慶元ヲ攻メシム彼レ是等ノ諸城ニ近ツクヤ皆門ヲ開キテ降服シ國珍亦己レノ子ト共ニ降り南京ニ護送セラレタリ。

是ニ於テ朱元璋全支那ヲ平定セムト欲シ徐達ヲ大將軍トシ常遇春ト共ニ兵二十五萬ヲ率キテ北征セシメ胡廷瑞ト楊璟ヲシテ南征セシム胡廷瑞間モナク福建ヲ平ケ同時ニ楊璟廣西ヲ占領ス蓋シ是等南方諸省ハ久シク外人ノ壓迫ニ飽キタリシ時ナレハ何等ノ抵抗ヲモナサリシナリサテ徐達等ハ先ツ淮黃二河ノ間ノ地ヲ取リ尋テ黄河ヲ渡リテ山東ニ入り宣言シテ曰ク蒙古人等ノ如キ野蠻人ハ我

等ノ如キ文明人ヲ治ムルニ適セス却ツテ我等ニ治メラルヘキ者タリ蒙古人カ我國ニ克チタルハ彼等ノ力ニヨルニアラス天授ノミ天之レニヨリテ我等ヲ懲罰シタルノミ然ルニ天今ヤ蒙古人ノ罪惡ヲ憤リテ其力ヲ奪ヒ之ヲ有徳ノ偉大ナル武人衆ニ敬愛セラルル武人ニ授ケタマヒタリト。

諸將到ル所何等ノ抵抗ニ會ハス山東盡ク平定シ尋テ河南ニ往キシカ同シク諸城盡ク門ヲ開イテ之ヲ迎ヘヌ。

「トガンナムル」是等征服ノ速ナルニ驚キ頻リニ使ヲ「ククナムル」ニ遣ハシテ來援ヲ求メシモ彼レ來ラス却ツテ兵ヲ率キテ太原ニ向フ。

一三六八年二月即チ支那正月ノ元日朱元璋皇帝ノ位ニ登リ國ヲ明ト稱シ年號ヲ洪武ト名ク又彼レ自ラモ洪武ノ名ヲ以テ呼ハル但シ死後太祖ノ名ヲ贈ラレタリ太祖トハ創立者又ハ大ナル祖先ノ義通常各朝ノ創立者ニ附與セラルル所ノ名稱ナリトス。

一三六八年八月洪武帝自ラ南京ヲ出テ「ピンリエン」(Pingliên 汴梁?)ニ於テ黄河ヲ渡リ元都ニ向フ諸城皆喜ムテ之ヲ迎フ同時ニ彼レノ二將山東ヨリ北直隸ニ入ル此時「トガンナムル」帝ノ大臣「チエリニエン」(Che lien 漢字不明)宗廟ヨリ蒙古諸帝ノ

位牌ヲ取り出シ、太子ト共ニ北方ニ走ル。帝之レニ從ヒ往カムト欲シ、「チムルブガ」ヲ己レノ補佐トシ、慶同ヲシテ城ヲ守ラシメ、尋テ諸王子、諸王女及諸大官ヲ集メ、蒙古ニ退カムトノ意ヲ告ケ、同夜、家族ト共ニ上都ニ出發ス。ヤカテ明帝、大都ノ門ニ到リ、微少ノ戰鬪ニヨリテ中ニ入ルコトヲ得タリ。是ニ於テ支那ニ於ケル蒙古ノ支配終ヲ告ク。

カクテ今ヤ支那ノ殆ント全部ハ明帝ヲ奉スルニ至リシモ尙蒙古人ノ治下ニアルモノナキニアラス。明帝ヤカテ之ヲ征服シ尋テ、彼等ノ故地ニ追驅シ之ヲ取ラムト欲ス。サテ元帝ハ「トガンテムル」上都ニ逃レシモ未タ安カラサルヲ感シ急ニ北方タル「Tai」湖畔ノ應昌ニ往キシカ、一三七〇年、同地ニ於テ死シタリ。齡正ニ五十一歳、治世三十五年ナリキ。

明軍、應昌ヲ取り、「トガンテムル」ノ孫「マイチリバラ」(Maitipala)及多クノ諸王子、諸王女並ニ高貴ノ者ヲ擒ニシ、何ツレモ支那ニ送ラレシカ、太子ハ當時蒙古ノ首都ナリシ「カラクルム」ニ逃レタリ。明帝、カノ太子カ故土ニ於テ兵ヲ集メ支那ニ攻メ來ラムトスルヲ聞キ、一三七二年、大軍ヲ徐達ニ授ケ、之ヲ迎ヘ討タシム。徐達進ムテ「ケルロ」河及「ツラ」ニ於テ戰ヒシカ、勝敗決スル所ナカリキ。一三七五年、蒙將ククテムル「死

ス。

一三七八年カノ、元ノ太子死ス。彼レハ其前、既ニ「カカン」(Kha Kan)ト稱シ居タリキ「カカン」トハ白汗即チ大汗ノ義ナリ。子「ツクスチムル」(Tukus timur)繼キテ立ち蒙古ノ君主トナレリ。明帝使ヲ遣ハシテ之ヲ祝シタリ。然ルニ其後、蒙兵屢々支那ノ邊疆ヲ侵セシカハ、一三八八年、明帝、一軍ヲ派シテ「ツクスチムル」ヲ「ブユル」(Buyur)湖畔ニ討テ大ニ之ヲ破リ、彼レノ妻及第二子並將士ヲ獲ルコト三千有餘「ツクスチムル」逃レ去リシカ「ツラ」附近ニ於テ、同族ノ王子「イスダ」(Yisudar)ヲ殺シ、自ラ繼イテ立ツ。尋テ多クノ野心家、内亂ヲ起シ、騷擾何時絶ユヘシトモ見エサリシカ、一四〇三年「ゴルチ」(Golchi)ト名クル王子勢力ヲ得テ主權ヲ握リシモ、彼亦間モナク暗殺セラレ、「ブインシヤラ」(Bain Shara)繼イテ立ちテス。

一四〇八年明帝「ブインシヤラ」ニ明ノ臣トナルヘク勸メシニ彼レ之ヲ拒ミシカハ兵ヲ派シテ蒙古ニ侵入セシメシカ「ツラ」附近ニ於テ敗北シタリ。因テ一四一〇年、第三代ノ明帝永樂、大軍ヲ率キテ「ケルロン」河ニ進ム「ブインシヤラ」ノ補佐タル王子「オロタイ」(Olota)野心アリ、叛キテ東方「ハイラル」河畔ニ退却ス。帝「オン」河畔ニ於テ「ブインシヤラ」ヲ、蒙古ノ東境ニ於テ「オロタイ」ヲ破ル。

一四一二年「ウイラト」族ノ王子「マームド」(Mahmud)、「ブインシヤラ」ヲ殺シ、「ダルベク」(Dalbel)ヲ立テテ蒙古ノ皇帝トナス。

其後、元ノ諸王子ハ元ノ失ヒタル地ヲ恢復セムト欲シ、二百年間嘗テ其努力ヲ絶タス、或ハ守兵ナキヲ窺ヒテ明ノ國境ヲ侵シタルコトアリ、或ハ明ノ大軍ニ破ラレ、降伏シタル者アリキ。

第十七世紀ノ中葉、明朝其終リニ近ツキタル頃、蒙古ハ四分五裂シ、各小酋長其各部ヲ支配シ、何レモ汗ト稱シタリ。

即チ、北方「カルカ」族ハ蒙古發祥ノ舊地ニアリ。其西方故ノ「ナイマン」族ト「ウイグル」族ノ地ハ「エレウト」(Elt)族之ヲ占領シ、「チャカル」(Chakar)族ト「オールド」(Ordo)族トハ長城ト「ゴビ」沙漠トノ間ニ住シタリ。一六四四年、滿洲朝カ支那ノ主權ヲ握ルヤ、先ツ東端ノ蒙古人及「カルカ」族ヲ其保護ノ下ニ置キシカハ、彼等力ヲ得テ、「チャカル」族ヲ征服シ、尋テ「オールド」族ヲモ征服シタリ。カクテ「カルカ」族ハ久シク獨立ヲ維持セシカ、ヤカテ「エレウト」族ニ攻メラレ、滿洲朝ノ支那皇帝ニ援ヲ求ムルノ已ムナキニ至リ、一六九一年、康熙帝ノ時、長城ノ北方四十里ニ居ル「カルカ」族ノ汗三名、明ノ臣トナリシカ、遂ニ一七六〇年「エレウト」族鎮定セラレシ結果、今日ニ於テハ蒙古本部ハ大抵支那

ニ歸シ、殘餘ハ露西亞ノ支配ヲ受ク。

過去ノ歴史ニ於ケル蒙古人ノ活動ハ實ニ目覺マシキモノナリキ。サレトソノ今後ノ活動ハ更ニ遙ニ大ナルモノアルヤモ知ルヘカラズ。而シテソカ如何ニ大ナルカ、如何ニ多樣ナルカ、如何ナル性質ノモノナルカハ蓋シ將來ノ祕密ニ屬ス。

326
60

終